

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
物理学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	物理的現象の基礎理論を医療・看護と結び付けて学び、看護場面に活用する能力を養う。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	物理学入門	物理学の導入、看護と物理学		講義	
2	光と視覚	基礎、眼の解剖生理、視覚認知、医療機器		講義	
3	波と画像診断	基礎、超音波、画像化、他		講義	
4	熱とエネルギー代謝	基礎、体温、人体と熱		講義	
5	電磁気と神経・筋	基礎、神経・筋、医療機器		講義	
6	力学(1)	看護と力学、静力学		講義	
7	力学(2)	人体と力、身体バランス		講義	
8	まとめ(1)	2～7回の授業に関する演習または総括		演習	
9	運動(1)	動力学、運動学、動作解析		講義	
10	運動(2)	運動と生活活動		講義	
11	音と聴覚	基礎、耳と聴覚、発声、医療機器		講義	
12	圧力と循環	基礎、循環器系の解剖生理、医療機器		講義	
13	圧力と呼吸	基礎、呼吸器系の解剖生理、医療機器		講義	
14	放射線と人体	基礎、X線、核医学、治療		講義	
15	まとめ(2)	9～14回の授業に関する演習または総括		演習	
評価 方法	出席状況、筆記試験				
参考 文献 資料 備考	木下順二：医療系のための物理学入門。講談社，2017年				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)	
論理的思考と表現法	非常勤講師	1 単位	30時間	15	試験1回

学習 目標	論理的な思考の形式・構造を理解し、文章の書き方、表現法を訓練する。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	論理学・論理的思考と表現法の概要				講義
2	原稿用紙の書き方				講義
3	原稿用紙の書き方				講義
4	論文とは 論文の形式				講義
5	文献とは 文献の使い方				講義
6	論文の書き方				講義
7	論文の書き方				講義
8	論理的に表現する「学校についての説明」				講義
9	論理的に表現する「学校についての説明」				講義
10	手紙を書く				講義
11	図や文章を読んで要旨を説明する				講義
12	グラフの読み取り方				講義
13	メディアから考える				講義
14	「少子化問題」について考察する				講義
15	「使い捨て容器」について考察する				講義
評価 方法	授業中に提出した課題 (70%) テスト (30%) で評価する。				
参考文 献 資料	・プリントを配布します				
その他	授業は人前で話したり、文章を書いたりする活動が中心となる。慣れることで苦手意識を少しでも克服してほしい				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
情報科学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習目標	医療のIT化や情報システムに適応できる情報処理の知識と技術を学ぶ。具体的には情報の種類と取扱いに関する注意、統計の基礎に関する知識の習得を目指し、コンピューターを用いた文書やスライドの作成、統計の知識を用いたデータ処理、整理したデータをまとめて資料を作成するなどの演習を通じて技術の習得を目指す。	
回数	学 習 内 容	学習方法
1	ガイダンス コンピュータの構造と基本的な使い方	講義
2	情報セキュリティについて	講義
3	Wordの基本的な使い方	講義
4	PowerPointの基本的な使い方	講義
5	Excelの基本的な使い方	講義
6	WordとExcelを使ったレポート作成	講義
7	技術テスト、タイピングテスト1	講義
8	ムービーメーカーを使ったレポート作成	講義
9	統計：平均と分散	講義
10	レポート1：情報セキュリティ対策の実践について レポートの書き方	講義
11	統計：検定の考え方	講義
12	統計：アンケート作成	講義
13	統計：アンケート実施とデータ処理	講義
14	統計：データの統計処理	講義
15	レポート2、タイピングテスト2	講義
評価方法	提出物20点 技術テスト20点 タイピングテスト20点 レポート1 20点 レポート2 20点	
テキスト	「統計学がわかる」	
備考		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)	
社会学	非常勤講師	1 単位	15時間	15	試験1回

学習目的 学習目標	<p>学習目的：社会構造、社会現象、社会的行為について学び、人々の生活と社会との関連を理解する。</p> <p>学習目標：</p> <p>1) 社会学の定義や目的を知ることができる。</p> <p>2) 社会学の研究対象（行為や行動、家族、コミュニティなどの集団、組織、社会構造や社会変動など）について研究事例を通して知ることができる。</p> <p>3) 社会現象への問いかけに対し、学術的な解決手段や考え方について体験的に知ることができる。</p> <p>4) 社会学的な発想や見方の特性について知り、看護との関連性を考えることができる。</p>				
回数	学 習 内 容				
1	テーマ「仕事に関する働きがいと職場を取り巻く社会的環境」				
2	組織心理学的なアプローチによる職場の話、職場という組織に影響する社会的な要素や職業選択における社会構造に関する社会学的アプローチなど				講義
3					
4					
5	通過儀礼（成人式・婚礼・葬式など）や祭りなど、儀礼の行為や習慣に込められた考え方や願い、意味などを学ぶ。儀礼にこめられた価値や信念が、普段の生活のなかでどのように人々の意思決定や行動指針に影響しているかを知る。				講義
6					
7					
8	「生死をめぐる人々の考えと行為の関連について社会学的手法から学ぶ」② 身近な通過儀礼についてを調べ、比較検討し、発表する。 そこから、価値信念がどのように生活に影響を及ぼしているか考察す				講義
評価方法	レポートと授業態度を総合的に評価する				
参考文献資料					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)	
社会心理学	非常勤講師	1 単位	30時間	15	試験1回

学習 目標	人間の心の発達と働きを社会との関連から学び、社会的存在としての人間を理解する。心理的視点から人間を理解することを目標とする。そのために、社会の中で人間を理解するための基礎的な心理学知識を学習する。				
回数	学 習 内 容				
1	イントロダクション・社会心理学とはなにか				学習方法
2	生活・知能の心理				講義
3	集団(組織)における人間関係・リーダーシップ(6章)				講義
4	学習・行動の獲得と変容-集団における人間関係・リーダーシップ(第6章)				講義
5	感情・欲求・動機づけ(3章)				講義
6	自己意識・自己概念・適応と適応規制				講義
7	感覚・知覚(1章)				講義
8	記憶(2章)				講義
9	対人認知と対人関係(1)友人関係				講義
10	対人認知と対人関係(2)恋愛関係				講義
11	発達(1)発達原理と影響要因-ストレスとその対処(7章)				講義
12	発達(2)生涯発達(5章)				講義
13	医療における人間関係-ストレスとその対処				講義
14	カウンセリングと心理療法(9章)				講義
15	学習・行動の獲得と変容				講義
16	試験予定				
評価 方法	小レポート (30%) ・授業の終わりに毎回小レポートを出します。 ・内容はその日の授業についてです。 ・このレポートは必ず提出して下さい。 定期試験 (70%)				
教科書	看護学生のためのしんりがく長田久雄 医学書院、その他のものは適宜紹介します。				
受講の ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻をしない ・授業中に携帯電話(メール)をしない ・授業中には私語をしない 				

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	回数
教育学	非常勤講師	30時間	15回+試験1回
<学習目標> 1. 教育の人間形成、成長・発達への影響、および人間にとっての教育の意義を理解する。 2. 看護における教育的役割を实践するための基礎的知識を理解する。 3. 専門職業人として主体的に生涯学習を行う必要性を理解する。			
時間	学習目標	内容	学習方法
10	教育の原理	1. 教育とは何か 2. 教育の歴史、学校の歴史 3. 教育の制度 4. ケアと人間関係 5. 健康と教育	講義
6	社会と教育	6. 21世紀の教育の展望 7. 労働者の学習 8. 社会教育と生涯学習	講義
14	教育の実際	9. 学ぶことと教えること 10. 障害児教育の現状と課題 11. ナラティブ学習の実際 12. 生徒指導と教育相談 13. カウンセリングの方法と実際 14. 発達障害の子どもと学級づくり 15. 教育と福祉の問題	講義
1	試験		
評価方法	試験40%、レポート20%、出席30% 平常点(コメントカード) 10% 試験内容、レポート課題については授業内で指示する		
テキスト	「新体系看護学全書基礎科目 教育学」2006年、メヂカルフレンド社		
履修上の注意	本講義は適宜演習などを取り入れるため、授業への積極的な参加が求められる。質問等は授業終了後、あるいはメール(mayu-miz@hotmail.co.jp)で受け付ける。		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
人間行動学 I	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習目標	対人関係における自分の特徴を探求する。 授業では毎回設定された学習素材に取り組むことにより、その時起っていること（気持ちの変化・人との応答など）を明確にすることから、なぜそのようになっているかを分析し、自己理解を深めていく。特に人間行動学 I では自分の中に起こる気持ちの変化を基に、自分の思考・言動・反応などがどのように起っているのか気づく。カウンセリング論、人間行動学 II へとつながっていく人間関係を学んでいく始めの一歩として、まず今の自分自身への気づきを深めていくことを目標とする。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1・2	実習「五感をつかって」				講義
3・4	実習「私MAP」				講義
5・6	実習「私の文章完成」				講義
7	実習「出会い」の試み				講義
評価方法	レポート課題 出席状況 ジャーナル 授業への取り組みの度合い				
参考文献資料	「今ここ」を生きる人間関係 グループファシリテーターの会Seeds ナカニシヤ出版				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩時間はその時の授業の進行によって多少前後します。 ・ 毎回、授業の日程を提示します。 ・ 毎回、少人数に分かれて話し合いをする時間があります。 ・ 各自でフラットファイルを準備し、配布する印刷物やジャーナルを保管してください。（カウンセリング論・人間行動学 II でも継続して同じファイルを使います） ・ テキストは毎回持参してください。 ・ 各自が持参するよう指示のあったものは、忘れずに持ってくるようにしてください 				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
人間行動学Ⅱ	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	効果的なコミュニケーションができるための方法と実際を体験を通して学ぶ。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1・2	オリエンテーション 実習「2つの窓」 小講義「体験から学ぶとは」 実習「名画鑑賞」 小講義「コンテンツとプロセス」				講義
3・4	小講義「グループを視る視点」 実習「タワービルディング」 ふりかえり わかちあい 小講義「PM理論」				講義
5・6	実習「チームラリー」 ふりかえり わかちあい 小講義「場の理論」				講義
7・8	ねらいの立て直し 実習「新説・桃太郎」 小講義「コンセンサスの意義」				講義
9・10	実習「富士山噴火」実習の振り返り 小講義「価値観と人間関係」				講義
11・12	実習「ブロックモデル」 ねらい決め 実施とふりかえり 実習のわかちあい 小講義「シェアードリーダーシップ」				講義
13・14	実習「グループ表現」 ふりかえり わかちあい 今後の目標作り				講義
15	レポート課題提示 授業全体の振り返り用紙記入				講義
評価 方法	レポート課題 出席状況 ジャーナル				
参考文献 資料	「今ここ」を生きる人間関係 グループファシリテーターの会Seeds ナカニシヤ出版 人間関係トレーニング(第2版) 津村俊充・山口真人編 ナカニシヤ出版				
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
カウンセリング論	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習目標	自らの体験を通して、さまざまな人間関係のありようを学ぶ。実際の対人関係の場面における自分自身のありようや他者との関わりに目を向け、気づいたことをもとに自分自身の学びを導き出す。特に他者とのコミュニケーションプロセスに焦点をあて、人間関係で起こる様々なことに気づき、働きかける人間関係能力を高めていくことを目指す。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1・2	実習「私の対人コミュニケーションの棚卸し」 実習「女性が考えるいい男の条件」			講義	
3・4	実習「私の部屋」・実習「きく」			講義	
5・6	事例研究			講義	
7・8	アサーション①			講義	
9・10	アサーション②			講義	
11・12	ロールプレイ			講義	
13・14	実習「私の対人コミュニケーションの棚卸し」			講義	
15	コンセンサス実習			講義	
評価方法	レポート課題 出席状況 ジャーナル				
参考文献資料	「今ここ」を生きる人間関係 グループファシリテーターの会Seeds ナカニシヤ出版				
備考					

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	回数
生命倫理学	非常勤講師	30時間	15回+試験1回
学習目標	現代に生きる人間として、また、医療人として、現代が直面している生命倫理に関する議論を理解するとともに、生命の尊さと人間の尊厳に深く思いをいたしてほしい。		
回数	学習目標	内容	学習方法
1	生命倫理学への誘い	Bioethics (生命倫理学) の定義。成立の歴史的背景。従来の医の倫理とバイオエシックスとの相違について	講義
2	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの意義と実施上の問題点	講義
3	パーソン論	現代のパーソン論が継承している西洋思想における「人格」の概念について歴史的に振り返った後、現代のパーソン論における論点を紹介する。	講義
4	同上続き		
5	倫理学の基礎理論	応用倫理学としての生命倫理学を学ぶに際して、その基礎となる伝統的な倫理学のうち、代表的な功利主義と義務論の概略を知ってもらう。	講義
6	生殖補助医療	生殖補助医療の現状とその倫理的問題点。	講義
7	同上続き		
8	遺伝子診断	遺伝子診断の現状とその倫理的問題点	講義
9	移植医療	臓器移植の国内外における現状と倫理的問題点	講義
10	生命の神聖さと生命の質	生命の尊さ (SOL) ・生命の質 (QOL) という考え方の関連で、治療行為の中止、安楽死、尊厳死について考察する。	講義
11	安楽死・尊厳死		講義
12	生命倫理の基本原則	上記11回を振り返りながら、生命倫理の基本原則を整理	講義
13	患者の自己決定と社会的決定	患者の自己決定とその許容範囲、社会としての決定と法整備について。	講義
14	生命倫理と家族	患者の家族は、生命倫理の中でどのように位置づけられるか。	講義
15	人間の幸福の追求と医療技術	人間の願望実現のための医療は、どこまで許されるのか	講義
16	試験		
評価方法	毎回の受講態度と論述式の定期試験によって評価する		
参考文献資料	講義の中で、適宜列挙する。また、必要に応じて、資料プリントや新聞記事、ビデオ等も使用する。		
備考	授業方法は、基本的には講義形式であるが、可能な限り、受講生自身の考えや意見を述べてもらうなど、双方向的に授業を進めたい。また、授業内容に関する質問や要望にも随時対応するので、遠慮なく申し出てほしい		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
レクリエーション理論と実際	非常勤講師	1	15	7	試験1回

学習目標	<p>目的：健康生活におけるレクリエーションの意義と方法を学び、看護実践に活用できる能力を養う。</p> <p>目標：1) 身体的運動により健康保持増進を図る。 2) 集団的スポーツによるコミュニケーションづくりをする。 3) スポーツとケガの対応について理解する。</p>	
回数	学 習 内 容	学習方法
1	ガイダンス 体ほぐし (体幹運動・なわとび)	実技
2	ソフトバレーボール	実技
3	ソフトバレーボール	実技
4	バスケットボール	実技
5	バスケットボール	実技
6	卓球	実技
7	卓球	実技
8	評価	実技
評価方法	実技とレポート試験	
評価に際する留意	<p>① 5 / 7 回分を最低出席とする。</p> <p>② 基本的に実技活動であるため、見学時はレポートの提出をする。</p> <p>③ 積極的な運動参加をする。</p> <p>④ チームによる協力体制にてスポーツを楽しむ。</p> <p>⑤ 自己の運動能力を高める。</p>	
備考	<p>持ち物 タオル・筆記用具・飲み物</p> <p>服装 トレーニングウェア・Tシャツ、ハーフパンツなど</p> <p>髪の長い学生は、邪魔になったりけがを誘発しないような態勢をとる。</p>	

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
英語 I	非常勤講師	1	15時間	7	試験1回

学習 目標	看護医療分野における英語を学び、活用できる力を身につける。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	UNIT 1 病院を訪れた患者に受診科を教える			講義	
2	UNIT 2・3 申込用紙に記入を促す			講義	
3	UNIT 4 患者の症状を尋ねる			講義	
4	UNIT 6 患者の健康状態を尋ねる 患者の労働環境を尋ねる			講義	
5	UNIT 7 既往歴・家族歴を尋ねる			講義	
6	UNIT 8 診察室や処置室で患者に指示をする			講義・演習	
7	Skit作成と発表 Listening Test			Test	
評価 方法	出席状況、毎講行う小テスト、筆記試験の結果をあわせて判断する				
参考 文献 資料	「看護学生のための物理学」佐藤和良著、医学書院				
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
英語Ⅱ	非常勤講師	1	15時間	7	試験1回

学習 目標	国際社会に対応できるための英会話を学ぶとともに多文化の理解と国際感覚を見につける				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	UNIT 8 病歴 (ロールプレイ) 病気の名前			講義	
2	UNIT 9 薬の服用 薬の種類			講義	
3	UNIT 10 予約の取り方			講義	
4	UNIT 11 手術に関する表現			講義	
5	UNIT 12 入院患者への質問			講義	
6	職場でのヘルスケアサポート、ロールプレイ			講義	
7	ロールプレイ発表、リスニングテスト			講義・演習	
8	テスト			講義	
評価 方法	出席状況、毎講行う小テスト、筆記試験の結果をあわせて判断する				
参考 文献 資料	「看護学生のための物理学」佐藤和良著、医学書院				
備考					

授業科目	単位	時間	担当講師(実務経験)	回数(試験)
形態機能学	1	30	医師(整形外科)	16時間(8回) 6時間(3回) 演習(3回) 試験(1回)

ねらい	看護に必要な人体の形態と構造、正常な機能に関する知識を習得する		
学習目標	細胞、血液系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、運動器系、感覚系、体温調節系、内分泌系の機能を形態と関連付けて説明できる。		
回数	学	習	学 習 内 容
1	基礎知識・細胞と組織		講義
2	皮膚と膜・血液		講義
3	消化器系		講義
4	内分泌系・生殖器系		講義
5	骨格系・筋系		講義
6	神経系		講義
7	感覚系		講義
8	免疫系		講義
9	呼吸器と血液のはたらき(呼吸器の構造と機能・血液の組成と機能)		講義
10	血液の循環とその調節(循環器系の構成・構造と機能)		講義
11	体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能・排尿路の構造、体液の調整)		講義
12	演習(形態機能発表会)準備		講義
13	形態機能 発表会		講義
14			
15	試験		
評価方法	筆記試験 講師1 70点(100点中) 講師2 30点(100点中)		
参考文献資料	人体の構造と機能①解剖生理学(ナーシンググラフィカ) 書いて覚える解剖生理ワークブック(照林社)→自己学習用		
備考	形態機能 発表会は教員がサポートします		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
生態栄養学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習目標	生体の正常な営みを理解するための基礎知識と生体に必要な栄養と代謝を学ぶ。				
回数	学 習 内 容			学習内容	
1	生化学とは			講義	
2	糖質の構造と種類			講義	
3	脂質の構造と種類			講義	
4	核酸の構造			講義	
5	蛋白質の構造			講義	
6	蛋白質立体構造とその異常による病気			講義	
7	酵素			講義	
8	糖代謝 I			講義	
9	糖代謝 II			講義	
10	脂質代謝			講義	
11	血糖値を調整するホルモンと糖尿病			講義	
12	蛋白質・核酸の代謝と代謝異常による病気			講義	
13	ゲノムの構造：染色体、クロマチン、メチル化、再生医療との関わり			講義	
14	複製と細胞老化：DNAポリメラーゼ、テロメア			講義	
15	生態栄養のまとめ			講義	
16	試験				
評価方法	筆記試験 100% (授業態度も参考にする)				
参考文献資料	穂苅茂、他：超入門 生化学・栄養学 (照林社)				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)
病理学総論	医師 (病理科)	1	15	7回及び試験

学習目標	疾病の成り立ちと病態の特徴を理解する。	
回数	学 習 内 容	学習方法
1	病理の概要、循環障害	講義
2	細胞組織の障害と修復	講義
3	免疫異常、炎症	講義
4	感染症	講義
5	腫瘍	講義
6	先天異常	講義
7	老化と老年病	講義
8	試験	
評価方法	筆記試験 100点満点(60点以上)	
参考文献資料	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進①病態生理学	
備考		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学 I	医師 (呼吸器内科) 医師 (呼吸器外科) 医師 (整形外科)	1	30	15	試験1回
科目 目標	呼吸器系・運動器系の機能と構造、および代表的な疾患の病態生理・治療、検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントするための基礎的知識を習得する				
回数	学 習 内 容	学 習 内 容			
1	呼吸器の構造と呼吸の生理	講義			
2	呼吸器の症状と病態生理	講義			
3	呼吸器疾患における主な検査・処置	講義			
4	呼吸器疾患 (感染・アレルギー・拘束性肺疾患など)	講義			
5	呼吸器疾患 (肺癌、悪性胸膜中皮腫、じん肺など)	講義			
6	運動器の構造と機能 (骨・関節・神経・筋肉・腱・靭帯)	講義			
7	運動器の疾患の症状、病態生理、診断・治療について	講義			
8	外傷性の運動器疾患について (骨折、脱臼、捻挫、神経損傷)	講義			
9	腰痛	講義			
10	脊髄損傷	講義			
11	骨腫瘍および軟部腫瘍	講義			
12	末梢神経疾患、四肢および四肢帯の疾患	講義			
13	呼吸器疾患 (外科領域・肺癌以外)	講義			
14	呼吸器疾患 (外科領域・肺癌以外)	講義			
15	試験				
評価 方法	筆記試験 100点 (下記) 1回目～5回目：40点 6・7・8回目：30点 9・10回目：10点 11・12回目：10点 13・14回目：10点				
参考 文献 資料	テキスト一覧表参照				
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学Ⅱ	医師(循環器内科) 非常勤講師(血液内科医師)	1	30	15	試験1回

学習目標	①循環器系、血液・造血器の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	循環器・心臓疾患			講義	
2	循環器・心臓疾患			講義	
3	呼吸困難・浮腫・チアノーゼ			講義	
4	睡眠時無呼吸症候群			講義	
5	心音			講義	
6	心機能検査			講義	
7	心疾患の理解			講義	
8	心不全			講義	
9	血液の成分			講義	
10	赤血球・白血球の異			講義	
11	心不全			講義	
12	心電図			講義	
13	造血腫瘍			講義	
14	循環器疾患のまとめ			講義	
15	血液疾患まとめ			講義	
16	まとめ 試験				
評価方法	筆記試験 100点満点				
参考文献資料	系看 専門Ⅱ 成人看護学(3) 循環器(医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学(4) 血液・造血器(医学書院)				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学Ⅲ	医師 (消化器内科) 医師 (外科) 医師 (消化器外科)	1	30	15	試験1回

学習 目標	①消化器系の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・ 検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を 習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者 医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習内容	
1	消化器の疾患			講義	
2	消化器の疾患			講義	
3	消化器の疾患			講義	
4	消化器の疾患・肝硬変			講義	
5	消化器の手術、がん治療、ドレナージ			講義	
6	門脈圧亢進			講義	
7	消化器の手術			講義	
8	肝疾患について			講義	
9	急性腹症			講義	
10	消化器系の癌			講義	
11	肝・胆・膵の解剖 ヘルニア			講義	
12	乳がんの疫学、診断、治療			講義	
13	黄疸、胆石症、胆嚢炎 肝胆炎 胆管炎			講義	
14	黄疸、胆石症、胆嚢炎 肝胆炎 胆管炎			講義	
15	まとめ 試験				
評価 方法	筆記試験 100点満点				
参考 文献 資料	系看 専門Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝(医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学(8) 腎・泌尿器(医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学(11) アレ・膠原・感染症(医学書院) 病気が見える 免疫・膠原病・感染症				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)	
病態生理学Ⅳ	医師 (神経内科) 医師 (脳神経外科) 医師 (産婦人科)	1	30	15	試験1回

学習目標	①脳神経系の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	脳神経系の構造と機能			講義	
2	意識障害			講義	
3	脳血管障害			講義	
4	脳・神経の変性疾患			講義	
5	認知症			講義	
6	交感神経・副交感神経			講義	
7	女性生殖器について			講義	
8	脳神経疾患まとめ			講義	
9	婦人内分泌疾患			講義	
10	脳血管障害 (外科系)			講義	
11	脳出血			講義	
12	脳血管障害 (外科系)			講義	
13	性感染症			講義	
14	頭部外傷			講義	
15	テスト、まとめ				
評価方法	筆記試験 100%				
参考文献資料	系看 専門Ⅱ 成人看護学 (7) 脳・神経 (医学書院) 系看 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) (上記のテキストも合わせて必要) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (9) 女性生殖器 (医学書院)				
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学V	医師 (糖尿病・内分泌内科) 医師 (腎臓内科) 医師 (リウマチ科) 医師 (泌尿器科)	1	30	15	試験1回

学習 目標	①内分泌・代謝、腎・泌尿器系の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。 ②職業生活の継続をはかるため、就業と疾病コントロールの両立を支援する勤労者医療の基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容				学習内容
1	腎・泌尿器の構造と機能				講義
2	腎疾患				講義
3	糖尿病について				講義
4	免疫疾患				講義
5	泌尿器疾患の治療・検査				講義
6	糖尿病合併症				講義
7	尿路・性器の感染症				講義
8	内分泌学総論				講義
9	多発性筋炎 全身性エリテマトーデス				講義
10	下垂体前葉系疾患				講義
11	腎不全				講義
12	原発性アルドステロン症 クッシング症候群				講義
13	腎不全				講義
14	腎疾患まとめ				講義
15	まとめ 試験				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料	系看 専門Ⅱ 成人看護学 (6) 内分泌・代謝 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (8) 腎・泌尿器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (11) アレ・膠原・感染症 (医学書院) 病気が見える 免疫・膠原病・感染症				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
病態生理学VI	医師 (耳鼻咽喉科) 医師 (眼科) 医師 (皮膚科) 医師 (歯科口腔外科) 医師 (形成外科)	1	30	15	試験1回

学習目標	耳鼻咽喉・口腔・皮膚・目の機能と構造および代表的疾患の病態生理・治療・検査を理解し、生活にどのような健康上の課題が生じるかアセスメントする基礎的知識を習得する。				
回数	学 習 内 容	学習方法			
1	眼のしくみと働き	講義			
2	眼疾患の診断	講義			
3	耳の解剖と検査	講義			
4	眼疾患について	講義			
5	耳各論	講義			
6	皮膚の構造と症状	講義			
7	口腔の働き	講義			
8	皮膚科疾患の診断と治療	講義			
9	歯周炎と全身疾患	講義			
10	皮膚科で見る主な疾患と治療	講義			
11	気管切開について	講義			
12	嚥下障害	講義			
13	創傷管理	講義			
14	口腔癌	講義			
15	口腔粘膜疾患ビスフォーネート	講義			
評価方法	筆記試験 100%				
参考文献資料	新体系看護学全書⑫ 皮膚/眼 (メヂカルフレンド社) // ⑬ 耳鼻咽喉科/歯・口腔 系統看護学講座 臨床看護総論 (医学書院)				
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
微生物学	非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習 目標	生態に影響を及ぼす病原微生物について理解し、医療従事者としての感染予防と管理能力のための知識を習得する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	微生物学総論			講義	
2	滅菌と消毒			講義	
3	抗菌薬と薬剤耐性			講義	
4	自然免疫			講義	
5	獲得免疫			講義	
6	グラム陽性球菌感染症			講義	
7	呼吸器感染症			講義	
8	経口感染①			講義	
9	経口感染②			講義	
10	ウイルス①肝炎			講義	
11	ウイルス②インフルエンザ			講義	
12	性感染症			講義	
13	真菌感染症			講義	
14	スタンダードプリコーション			講義	
15	実習 顕微鏡観察			講義	
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
臨床栄養学	栄養管理室長 (中部労災病院勤務)	1	15	7	試験1回

学習 目標	薬物治療の原理、薬理作用の基礎知識を学び、代表的な薬物の作用機序・特徴・人体への影響について理解する。		
回数	学 習 内 容		学習方法
1	臨床栄養学の基礎知識	臨床栄養学の基礎 (栄養とは)	講義
2		日本人の食事摂取基準と栄養アセスメント	講義
3	日常生活と栄養	人生各期における健康生活と栄養	講義
4	療養生活と栄養	検査食・手術・化学療法時のコントロール食	講義
5		消化器疾患のコントロール食	講義
6		内分泌・代謝・循環器疾患のコントロール食	講義
7		腎疾患・嚥下障害のコントロール食	講義
8	試験		
評価 方法	筆記試験 100%		
参考 文献 資料			
備考			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数 (試験)	
薬理学	薬剤師 (中部労災病院勤務)	1	30	15	試験1回

学習 目標	薬物治療の原理、薬理作用の基礎知識を学び、代表的な薬物の作用機序・特徴・人体への影響について理解する。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	薬理学とは				講義
2	イオンチャネル				講義
3	薬物相互作用				講義
4	抗生物質について				講義
5	抗がん剤について				講義
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬				講義
7	神経系に関連する薬剤				講義
8	中枢神経の働きと薬物				講義
9	利尿剤				講義
10	血管系に作用する薬物				講義
11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物				講義
12	糖尿病の薬				講義
13	漢方				講義
14	消毒薬				講義
15	テスト、まとめ				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
リハビリテーション医学	医師(リハビリテーション科)	1	15	7	試験1回

学習 目標	リハビリテーションの理論と方法を理解し、日常生活の自立に向けた治療およびケアの実際を学ぶ。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	リハビリテーション概論				講義
2	リハビリテーション評価				講義
3	脊髄損傷のリハビリテーション				講義
4	脊髄損傷をはじめとした麻痺性疾患の医学的管理				講義
5	嚥下障害の評価とリハビリテーション				講義
6	脳卒中のリハビリテーション				講義
7	切断患者のリハビリテーション				講義
8	試験				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
特殊治療学	医師(麻酔科) 医師(放射線科) 放射線技師(中部労災病院勤務) 臨床工学技士(中部労災病院勤務) 臨床検査技師(中部労災病院勤務)	1	30	15	試験1回

学習 目標	疾病の回復を促進するために必要な麻酔・救急法および放射線治療について学ぶ。	
回数	学 習 内 容	学習方法
1	臨床検査の基礎知識	講義
2	職業疾病検査と生理検査	講義
3	細菌検査と感染	講義
4	ME機器について	講義
5	ME機器について	講義
6	麻酔概論	講義
7	呼吸管理	講義
8	体液・栄養管理	講義
9	輸血療法	講義
10	BLS (演習含む)	講義
11	放射線治療(リニアック)・血管内治療(IVR)の特徴	講義
12	放射線治療と副作用	講義
13	放射線医学の基礎	講義
14	CTとMRI	講義
15	PETおよび放射線検査時の介助	講義
16	試験	
評価 方法	筆記試験 100%	
参考 文献 資料	臨床外科看護総論 臨床看護総論 看護に活かす検査マニュアル	
備考		

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
メンタルヘルスマネジメント	非常勤講師(臨床心理士・産業カウンセラー実務経験有)	1	15	7	試験1回

学習 目標	勤労者の職場におけるメンタルヘルスの現状と対策を学び、勤労者の看護に活用する能力を養う。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	働く人のメンタルヘルスの現状理解			講義	
2	ストレスの理解とストレスコーピング			講義	
3	メンタルヘルス支援者に必要な基本的構え			講義	
4	パーソナリティ診断を用いて支援者としての傾向を知る			講義	
5	働く人のメンタルヘル스에役立つ認知行動療法			講義	
6	メンタル不調者の成長の支援 ～コーチング的関わり～			講義	
7	メンタルヘルス支援者としての今後の歩みとコミットメント			講義	
8	試験				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料					
備考					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回数 (試験)
医療学	医師(中部労災看護専門 学校長)	1	15	7回及び試験

学習目標	医療と看護の原点を学び、現代医療をめぐる諸問題について理解する。		
回数	学 習 内 容	学習方法	
1	ワークショップとKJ法	講義	
2	勤労者医療	講義	
3	保険制度と現代医療	講義	
4	救急医療と災害医療	講義	
5	医療安全と災害対策	講義	
6	医学史と今後の展望	講義	
7	プロフェッショナルリズム	講義	
8	試験		
評価方法	筆記試験 100点		
参考文献 資料	看護学生のための医療概論 (医学書院)		
備考			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
公衆衛生	専任教員(領域実務経験有) 非常勤講師(産業カウンセラー実務経験有) 非常勤講師(保健センター実務経験有) 非常勤講師(領域大学教授)	1	30	15	試験1回

ねらい	健康に関する社会の動向を捉え、健康生活を送るための諸条件や環境要因、組織的な保健対策と保健行政を学ぶ。				
学習目標	1) 公衆衛生の概要について理解できる。 2) 公衆衛生活動における看護師の役割について考えることができる。				
回数	学習課題	内 容			学習方法
1	「ひとりの健康」から 「みんなの健康」へ	公衆衛生とは・公衆衛生行政、世界の公衆衛生の始まり、日本の公衆衛生の始まり			講義
2	疫学と保健統計	衛生の指標とその見方、人口静態と人口動態、生命表、主要死因の推移、健康状態と受療状況			講義
3	疫学と保健統計	疫学研究 ・疫学とは・コホート調査、横断・縦断研究、後向き・前向き研究・感染症の区分			講義
4	疫学と保健統計	環境問題、公衆衛生の実情、公衆衛生が必要な理由			講義
1	勤労者の保健衛生①	勤労者看護における保健活動 衛生行政における基本的理解			講義
6	集団を対象とした保健行動	保健活動の体験・対象集団の理解・対象集団の抱える健康上の課題の発見・健康上の問題解決のための対策			講義
7	食品の流通における安全と 安心のための取り組み	食品衛生の実 ・食品衛生検査所の役割 ・食品衛生検査の体験 (食品衛生検査所における見学・体験)			講義
8					講義
9	勤労者の保健衛生②	勤労者看護における保健活動			講義
10		保健と看護との連携			講義
11		勤労者の健康支援の具体策①			講義
12		勤労者の健康支援の具体策②			講義
13	プライマリヘルスケア①	保健活動の体験 ・健康上の課題解決のための対策の実施と評価			講義
14	プライマリヘルスケア②	保健衛生の動向			講義
15	まとめ・試験	本科目で履修した内容のまとめと試験			
評価方法	筆記試験 100%				
参考文献資料	福田素生他著「社会保障・社会福祉」医学書院 厚生労働省編「厚生労働白書」日経印刷 ミネルバ書房編「社会福祉六法」 厚生労働統計協会編「国民の福祉と介護の動向」				
備考	①日常的に社会福祉に関する情報に関心を持ち、常に問題意識を持つこと ②随時最新の参考資料を配布するので、分類・整理・保存しておくこと ③積極的な自己学習と受講に対する真摯な姿勢で臨むこと				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
社会福祉	非常勤講師(社会福祉協議会勤務)	1	30	15	試験1回

ねらい	社会福祉の概念や歴史的変遷、現在の社会福祉関係法制度・理念を学習するとともに福祉サービスを必要とする人の福祉ニーズを当事者の視点から理解し、支援に繋げる力を養う。また、看護専門職として、保健・医療・福祉など他職種連携を実践できるような社会福祉・社会保障の知識を習得する。				
学習目標	①生活問題・課題を抱える人の福祉ニーズを当事者視点から理解する。 ②看護師としての実践に応用できるような社会福祉及び社会保障の法制度・サービス等の知識を習得する。 ③ソーシャルワークの知識や社会福祉関係専門機関・専門職などの役割を理解する。 ④看護専門職として、保健・医療・福祉の多職種連携の実践ができるような力量を醸成する。				
回数	学習課題	内 容		学習方法	
1	福祉制度と福祉政策	福祉制度・福祉政策の概念の理念、生活問題、福祉ニーズと資源		講義	
2	社会福祉の歴史	西欧の歴史、日本の歴史、現代社会における生活門内・福祉課題、福祉政策、今後の社会福祉についての理解		講義	
3	社会福祉の法制度	社会福祉法、福祉六法、福祉行政財政の理解。社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人等の組織・機関と専門職・従事者の役割		講義	
4	社会保障制度①	社会保障の概念や対象および理念、社会保障制度の動向、財源と費用、社会保障制度の体系、諸外国における社会保障制度の概要		講義	
1	社会保障制度②	年金保険制度の概要、社会手当の具体的概要 医療保険制度の沿革、医療保険制度の具体的概要		講義	
6	社会保障制度③	労働保険制度の概要、雇用保険制度の具体的概要、労働者災害補償保険の具体的概要、労働関係法規の概要		講義	
7	低所得者支援と生活保護制度	生活保護法の概要、保護の動向、低所得者対策、生活福祉資金 生活困窮者自立支援法の概要		講義	
8	高齢者支援と介護保険制度①	高齢者福祉制度の発展過程、高齢者の生活実態と課題、高齢者虐待防止法、介護予防、介護保険法の概要①		講義	
9	高齢者支援と介護保険制度②	介護保険法の概要②、介護保険サービスの種類、介護支援専門員等専門職の役割、連携の方法、地域包括支援センターの役割		講義	
10	障害者支援と障害者総合支援法	障害者の定義と実態、理念、制度の変遷の理解。障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法、発達障害者支援法、障害者虐待防止法の理解。		講義	
11	児童家庭福祉制度	児童家庭福祉制度、児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、DV防止法の理解。児童福祉施設、児童相談所などの役割を理解する		講義	
12	相談援助の理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法。面接技術、マッチング技法、ケアマネジメントの展開過程、グループワーク、コミュニティーソーシャルワーク		講義	
13	地域包括ケアシステムと多職種連携	地域包括ケアシステム、多職種連携、地域包括支援体制の構築事例研究		講義	
14	事例研究	事例から社会福祉援助・支援を学ぶ		講義	
15	まとめ・試験	本科目で履修した内容のまとめと試験			
評価方法	筆記試験 100%				
参考文献資料	福田素生他著「社会保障・社会福祉」医学書院 厚生労働省編「厚生労働白書」日経印刷 ミネルバ書房編「社会福祉六法」 厚生労働統計協会編「国民の福祉と介護の動向」				
備考	①日常的に社会福祉に関する情報に関心を持ち、常に問題意識を持つこと ②随時最新の参考資料を配布するので、分類・整理・保存しておくこと ③積極的な自己学習と受講に対する真摯な姿勢で臨むこと				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
関係法規	非常勤講師(弁護士事務所勤務・弁護士)	2	30	15	試験1回

学習 目標	医療従事者を取り巻く法律をまなび、専門職業人として必要な法律と自己の責任について理解する。				
回数	学 習 内 容			学習方法	
1	法の概念			講義	
2	医療法の概要、医療施設の機能や管理			講義	
3	医療法より～医療に関する選択の支援、医療の安全の確保、診療に関する諸記録			講義	
4	医療法より～医療計画等医療体制の確保、病床等の機能分化等。公的医療機関と医療法人			講義	
5	医薬品と医療法具の取り扱い 医療を支えることに関連した法律①			講義	
6	医療を支えることに関連した法律②			講義	
7	医療過誤責任①			講義	
8	医療過誤責任②			講義	
9	衛生法と厚生行政のしくみ			講義	
10	保健師助産師看護師法			講義	
11	医療関係資格法			講義	
12	保健医療福祉資格法			講義	
13	労働基準法一般・その他 育児休業・介護休業又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律			講義	
14	災害時の医療に関する法律			講義	
15	試験				
評価 方法	筆記試験 100%				
参考 文献 資料					

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	回 数 (試 験)	
勤労者医療	専任教員(労災病院臨床実務経験有) 看護師(中部労災病院勤務看護師長) 非常勤講師	1	30	15	試験1回

学習目標	勤労者医療の基礎を学び労災病院における看護の特徴を理解する。				
回数	学 習 内 容				学習方法
1	労働衛生と労働者の現状 (労働衛生の理解、労働衛生行政と関係法規 労働衛生5領域、労働衛生の課題と対策)				講義
3	産業保健と労働者の健康支援				講義
4	勤労者に向けた健康教育 その1				講義
5	勤労者に向けた健康教育 その2				講義
6	勤労者に向けた健康教育 その3				講義
7	勤労者看護のための基本的知識				講義
8	労災病院における勤労者看護の実際 その1				講義
9	労災病院における勤労者看護の実際 その2				講義
10	労災病院における勤労者看護の実際 その3				講義
11	労災病院における勤労者看護の実際 その4				講義
12	労災病院における勤労者看護の実際 その5				講義
13	勤労者看護の看護過程 (事例)				講義
14	勤労者看護の看護過程 (事例)				講義
15	試験				
評価方法	筆記試験 100%				
参考文献資料	勤労者医療概論 (独立行政法人労働者健康安全機構)				

担当講師(実務経験)	単位	時間数
専任教員(臨床実務経験有)	1単位	30時間 (14回+試験)
基礎看護学 I 看護学概論		
学習目的：看護の概念を学び、社会に求められる看護の役割を理解する。		
学習目標：1) 看護の定義を知り職業および学問としての看護の位置づけについて述べる事ができる。 2) 看護の対象を理解し、対象の生活の質と関連させて看護の目的を説明できる。 3) 健康の概念について理解し、健康増進に対する関わり方を考えることができる。 4) 看護実践が行われる場を知り、看護の役割を理解する。 5) 看護に対する考えを理論的に学び、看護を実践するための思考過程とその根拠となえ方を述べる事ができる。		
回	内容	備考(授業形態)
1	健康の捉え方と健康サービスの変遷 原始的社会・古代・近代と歴史をたどり、人々の健康ニーズと支援のための仕組みについて学ぶ。	講義
2	現代の医療制度と看護 現代日本の健康ニーズを確認し、医療制度がどのように変化しているのか学ぶ。それにともなって看護が果たす役割につ	講義
3	看護の歴史 先人から看護を学ぼう① ナイチンゲール・ペプロウ・ロイ・オレム・ロジャース・ワトソンについてグループ学習を行う。	提示資料の視聴して講義に臨む。 講義はGW
4	看護の歴史 先人から看護を学ぼう② ナイチンゲール・ペプロウ・ロイ・オレム・ロジャース・ワトソンについてグループ学習を行う。	GW
5	看護の歴史 先人から看護を学ぼう③ ナイチンゲール・ペプロウ・ロイ・オレム・ロジャース・ワトソンについてグループ学習を行う。	GW
6	看護の歴史 先人から看護を学ぼう④ グループ学習の発表会 前半	GW
7	看護の歴史 先人から看護を学ぼう⑤ グループ学習の発表会 後半	GW
8	看護現象を理解するための諸理論の理解 ①基本的欲求(マズロー) ②発達について③ストレスコーピング理論 ④システム理論	講義
9	看護の定義と概念枠組みの理解 学んだ看護理論家の考え方のまとめ。システム理論の考え方をベースに看護の対象である人間と環境の影響・関係を学ぶ。	講義
10	看護の実践方法1 看護技術について(看護過程含む)基本的な考え方と種類を学ぶ。	講義
11	看護の実践方法2 さまざまな場で活躍する看護師の具体的な行動例から看護実践方法を学ぶ。	講義・GW
12	看護実践の方法3	講義

	保健・医療・福祉の概念とそれぞれの役割・連携を事例をもとに学ぶ。	
13	看護倫理について 事例から倫理的課題への対応を学び、 看護倫理の価値を考える。	GW
14	看護ケアのマネジメントについて 病院組織やリーダーシップ・メンバー シップについて	講義
15	試験と解説	

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	対象学生	回数
基礎看護学Ⅱ	専任教員(臨床実務経験有)	22時間	回生	16回(試験1回)
	専任教員(臨床実務経験有)	8時間		
学習目標：1. 快適な生活環境と病床整備の方法について理解する。 2. クローズドベッドが作成できる。 3. 臥床している模擬患者の横シート交換ができる。 4. ポジショニングの意義・援助について理解する。 5. 看護場面におけるボディメカニクスの意義を理解する。 6. 体位変換の目的と方法を理解する。 7. 人間にとっての運動の意義と運動が生体に及ぼす影響について理解する。 8. 自分で移動できない模擬患者の移動援助ができる。 9. 休息・睡眠の意義と入眠への援助を理解する。				
授業計画	学習内容		授業担当	授業形態
1	1. 生活環境の意義 2. 環境因子と健康			講義
2	看護場面におけるボディメカニクスの意義			講義・演習
3	1. 病床環境の調整 *患者にとって快適な病床環境を作ることができる(到達度Ⅰ) p13 2. ベッドメイキングの目的 1) 必要なリネン類の名称・取り扱い 2) ベッドメイキングの方法・クローズドベッド作成(演習)			講義・演習 看護技術学習ノート 手ぬぐいを持参してください GW課題配布
4				
5	ポジショニング 耐圧測定と安楽な体位について			講義・演習
6	体圧測定から得られた安全・安楽な体位とは 4コマ目は異学年交流 2年生がベッドメイキング具体的方法について教える			講義・演習
7	・体位変換の目的・体位の種類と目的 ・褥瘡発生の危険のアセスメント			講義・演習
8	1. 体位変換の実際①—仰臥位から側臥位、水平移動 2. 体位変換の実際②—仰臥位から端座位—起き上がり動作の援助・座位保持の援助 *臥床患者の体位変換ができる(到達度Ⅱ) p28			講義・演習
9	自分で移動できない模擬患者の移動援助 *患者を車いすで移送できる(到達度Ⅰ) *患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる(到達度Ⅱ) *患者のストレッチャー移送ができる(到達度Ⅱ)			演習 看護技術学習ノート
10				
9	クローズドベッド作成(チェック) *基本的なベッドメイキングができる(到達度Ⅰ) p14			技術評価(実習着) 看護技術学習ノート
10	1. 身体を動かすとは 2. 人間にとっての運動の意義、運動の効果 ・日中の活動の援助・廃用性症候群とは・関節可動域訓練 *関節可動域訓練ができる(到達度Ⅱ)			講義
13	臥床患者の横シート交換 ・リネン交換の目的・リネン交換の方法と留意点 *臥症患者のリネン交換ができる(到達度Ⅱ) p14			演習 看護技術学習ノート
14	休息・睡眠の意義と入眠への援助			講義・演習
15	筆記試験 まとめ			

1. 評価方法：

筆記試験（80点）

課題提出（10点）

技術チェック（10点）：ベッドメイキングの技術チェック内容で評価します。

不合格の場合は練習を重ね、自信がついたら担当教員に申し出て6月中にチェックを受ける。

2. 使用テキスト：

電子テキスト（志自岐康子編：ナースンググラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版、2019）

竹尾恵子：看護技術プラクティス、学研、2015

紙屋 克子：自立のための生活支援技術、2010

3. 学内演習の際の留意点

病院での実習と同様と考えてください。

1) 患者が使用するベッドです。ベッドスプレッドの上に腰掛けない、もたれない、スプレッドを使用していない状況でも同様です。

2) 基礎看護学ガイダンス準じ、身だしなみを整えて参加してください。

身だしなみを整えるとは？

身だしなみが整っていない場合、その人が身だしなみが整うまで、演習に参加できません。

そのため、ペアの人も参加できません。

ペア同士声をかけ合って、身だしなみチェックをしてください。

4. その他

1) 授業概要を参照し、必要な日に看護技術学習ノートを持参してください。

提出方法は、その都度伝えます。

授業概要

授業科目		担当講師(実務経験)	単位	時間 回数
基礎看護学Ⅲ 生活援助技術 (清潔・衣生活)		専任教員(臨床実務経験 有)	1単位	30 時 15回 間
ねらい	看護実践に必要な清潔・衣生活の基礎的看護技術を習得する			
【 学習目標 】				
1 清潔行動における生理的・心理的・社会的意義について理解する。 2 皮膚・粘膜の生理機能と清潔援助の関わりについて理解する。 3 模擬患者の清潔援助方法を理解する。 4 臥床患者の全身清拭が実施できる。 5 衣生活の生理的・心理的・社会的意義について理解する。 6 持続静脈内点滴を実施していない臥床患者の寝衣交換が実施できる。				
回数	日時	主題	学習方法	
1		清潔行動の意義、皮膚の構造と機能 清潔行動の種類	講義	
2		足浴体験 臥床患者への足浴の方法	講義／演習	
3		身体におよぼす入浴・部分浴の影響 石けんの効果	講義	
4		衣生活の意義と病衣 寝衣交換の目的と方法の理解	講義／演習	
5		全身清拭の目的と方法の理解①	講義／演習	
6		全身清拭の目的と方法の理解②	講義／演習	
7		全身清拭の方法の実際①	演習	
8		全身清拭の方法の実際② *他教員の参加により指導を受ける	演習	
9		臥床患者の洗髪の方法の理解	講義／演習	
10		臥床患者の全身清拭・寝衣交換 (異学年学習)	演習	
11		臥床患者の陰部洗浄の目的と方法の理解	演習	
12		口腔清拭の目的と方法の理解 整容の目的と方法の理解	講義／演習	
13		臥床患者の全身清拭・寝衣交換	演習	
14		グループ発表・意見交換	演習	
15		試験・まとめ		
評価方法		筆記試験 (90点) 課題 (10点)		
技術項目		患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる。【Ⅰ】 清拭援助を通して患者の観察ができる。【Ⅰ】 洗髪援助を通して患者の観察ができる。【Ⅰ】 患者が身だしなみを整えるための援助ができる。【Ⅰ】 持続静脈内点滴を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる。【Ⅰ】 臥床患者の清拭ができる。【Ⅱ】 臥床患者の洗髪ができる。【Ⅱ】		
【 】は到達度				
使用テキスト		基礎看護技術 (メディカ出版) 看護技術プラクティス第3版 (学研)		
参考文献		看護技術がみえる1 (メディックメディア)		

講義科目	担当講師(実務経験)	時間	対象学生	回数
基礎看護学Ⅳ(食生活・排泄)	専任教員(臨床実務経験有)	30時間	回生	15回+試験1回
ねらい	看護実践に必要な栄養・食生活、排泄の基礎的看護技術を習得する			
学習目標	1) 食事・栄養摂取の意義が理解できる。 2) 食事・栄養摂取のメカニズムが理解できる。 3) 栄養に関するアセスメントができる。 4) 対象に応じた安全な食事・栄養の援助が習得できる。 ・食事介助 ・経管栄養(胃瘻) 5) 排泄の意義が理解できる。 6) 排泄のメカニズムが理解できる。 7) 排泄に関するアセスメントができる。 8) 対象に応じた排泄方法を選択できる。 ・臥床患者の排泄援助 ・洗腸法 ・導尿法 9) 対象に応じた排泄援助ができる。 ・排泄用具を使用した援助 ・グリセリン洗腸			

回	学習内容	○ は到達度	授業形態
		課題①	
1	食事・栄養摂取の意義 食事・栄養摂取のメカニズム	食事摂取状況をアセスメント(Ⅰ)	講義
2	栄養に関するアセスメント	栄養状態をアセスメント(Ⅱ) 課題②	講義
3	安全な食事援助 経口摂取以外の栄養法		講義
4	排泄の意義 排泄のメカニズム 排泄のアセスメント		講義
5	食事の援助	食事介助(嚥下障害なし)(Ⅰ)	演習
6	排泄のメカニズム 排便・排尿を促す援助 (自然な排尿・排便を促す援助)	自然な排便・排尿を促す援助(Ⅰ)	講義 演習
7	ベッド上での排泄援助 尿器・便器の使用 ポータブルトイレの使用	患者に合わせた便器・尿器の選択をし排泄援助(Ⅰ)ポータブルトイレでの排泄援助(Ⅱ)	講義 演習
8	ベッド上での排泄援助 失禁している人の看護 おむつの装着		講義 演習
9	ベッド上での排泄援助 排尿に関する処置(導尿法)		講義 演習
10	ベッド上での排泄援助 排便に関する処置(洗腸・摘便)	摘便の方法、実施上の留意点(Ⅳ) モデル人形に洗腸(Ⅲ)	講義 演習
11	経管栄養を受けている患者の観察と看護	経管栄養を受けている患者の観察(Ⅰ)	講義
12	経管栄養法の援助の実践	モデル人形に、経鼻胃チューブからの流動食の注入(Ⅱ) 経鼻胃チューブの挿入・確認(Ⅲ)	演習
13	グリセリン洗腸の実際	モデル人形に洗腸(Ⅲ)	講義 演習
14	グリセリン洗腸 技術評価	モデル人形に洗腸(Ⅲ)	技術評価
15			
16	試験		

評価方法

試験 100点

筆記試験 80点 技術評価 10点 課題の評価 10点

テキスト

新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅱ

看護技術プラクティス 第3版

看護過程に沿った対症看護

演習・技術評価

演習は、トレーニングウェアの着用とする。

技術評価はユニフォームの着用とする。

演習・技術評価の後は、指示に従い看護技術学習ノートを提出する。

洗腸の技術評価時に、以下も確認します。

- ・スタンダードプリコーションに基づく手洗いの実施ができる(到達度Ⅰ)
- ・必要な防護具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる(到達度Ⅱ)
- ・感染性廃棄物の取り扱いができる(到達度Ⅱ)

講義科目	担当講師(実務経験)	時間	対象学生	回数
基礎看護学V(共通技術)	専任教員 (医療安全管理者実務経験有)	30時間(安全10回、コミュニケーション4回)	回生	15回(試験1回)
ねらい	看護実践に必要なコミュニケーション、安全の基礎的看護技術を習得する。			
学習目標	医療安全	1) 医療安全の意義を述べるができる。 2) 安全を脅かす要因とその予防策を述べるができる。 3) 主な医療事故とその対策を述べるができる。 4) 感染の成立過程を述べるができる。 5) 感染予防の対策を述べるができる。 6) スタンダードプリコーションが実施できる。 7) 感染予防における看護師の責務と役割を理解する。		
	コミュニケーション	1) 看護におけるコミュニケーションの意義を述べるができる。 2) 患者-看護師のコミュニケーションの成立要件について述べるができる。 3) 効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度が習得できる。 4) 対人関係の振り返りができる。		

回	月日	時間	学習内容	課題	授業形態
1			1. 医療安全を学ぶ意義 2. ヒューマンエラーとは 3. 医療事故と法的責任	課題①	講義
2			1. 感染成立のしくみ 2. 感染予防における看護師の責務と役割	課題②	講義
3			1. 感染経路への対策 1) スタンダードプリコーションの実際 ①衛生的な手洗い	技術学習ノート提出 課題③	講義 演習
4			②防護用具の着脱方法	技術学習ノート提出 確認テスト	講義 演習
5			1. 感染源への対策 ①洗浄 ②滅菌 ③消毒法	課題④	講義
6			1. 感染経路への対策 1) 滅菌物の取り扱い	課題⑤	講義 演習
7			2) 隔離法 3) 感染性廃棄物の取り扱い 4) 針刺し事故防止	技術学習ノート提出 レポート	講義 演習
8			1. 看護事故の構造と防止の視点 2. 看護事故防止のための対策 ・誤認、誤薬 ・転倒転落 ・療養環境	確認テスト	講義
9			1. コミュニケーションの意義 2. 患者-看護師関係のコミュニケーション 3. 対人関係の成立に不可欠な要件 4. 看護師に求められる資質	課題⑥	講義
10			1. プロセスレコードの意義 2. プロセスレコードの記述方法	プロセスレコード作成 6月25日提出	講義
11			1. 看護師に求められるコミュニケーション技術 2. 看護面接技法 3. 臨床におけるコミュニケーション手段 4. 積極的傾聴と共感	課題⑦	講義 演習
12			1. インタビュー 2. ロールプレイ	確認テスト	講義 演習
13			1. ヒヤリ・ハット事例の収集 2. KYT(危険予知トレーニング)	課題⑧	講義 GW
14			1. KYT(危険予知トレーニング)		講義/GW
15			試験		

は基礎・成人実習室で行う。看護技術学習ノートを持参すること。

テキスト

ナーシング・グラフィカ
 20巻 基礎看護技術
 5巻 臨床微生物・医動物
 42巻 医療安全
 看護技術プラクティス 第3版
 医療安全・・・・・・ I 3 安全管理の看護技術P31～
 　　　　　　　　　　　　 I 6 感染予防の看護技術P97～
 コミュニケーション・・・・ I 1 コミュニケーションの看護技術
 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理・・・・ 1 回目で使用
 看護学生のためのヘルス・アセスメント・ハンドブック・・・・ 2 回目で使用

評価方法

筆記試験 80点 課題20点
 8課題×2点=16点
 8課題すべて提出=4点

課題評価の方法

- 1 課題ごと以下の評価方法で評価する。
 ①未提出または時間に遅れた場合は、評価対象とならない。
 課題の内容、提出期限についてはその都度説明する。
 ②評価点は、2点（よくできた）1点（できた）0点（課題がある）
 2点 評価はAとBであり、かつAが2つ以上である。
 1点 評価はAとBであり、かつAが1つである、
 またはCが1つあるが、他はAとBである。
 0点 評価はCが2つ以上ある
 ③すべての課題を提出したら4点、1つでも未提出または遅れたら0点

課題に対する評価観点			
評価	A	B	C
読みやすさ	読み手に明確に意味を伝えることができ読みやすい	文章が概ねまとまっているが、改善すべき点がある	文章が長すぎるなど複数の改善すべき点がある。
表記形式やルールの確さ(誤字・脱字・語句・表現が適切に使われている)	誤字・脱字がない。かつ語句・表現が適切に使われている。	2か以上の誤字・脱字がある。または不適切やわかりにくい語句・表現がある	2か以上の誤字・脱字があり、かつ不適切やわかりにくい語句・表現がある
課題の理解	課題を理解し的確な解答である	課題を理解し解答しているが、記述内容に誤りがあるまたは不足している	解答内容が課題とは無関係である。
資料と根拠(エビデンス)の妥当性	信頼でき関係性のある資料を参照している	参照している資料は、ふさわしくない、または信頼性が乏しい	資料を参照していない、または根拠を示す記述がない

基礎看護学Ⅵ [フィジカルアセスメント] (1単位30時間15回【試験1回】)

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	
基礎看護学Ⅵ	専任教員(臨床実務経験有)	30時間	

学習のねらい:対象の健康問題が査定できるための基礎的看護技術を習得する。

学習目標:

1. 対象の健康問題を捉えるために、観察の意義を理解しフィジカルアセスメントの基本技術である視診、触診、聴診の技法を
2. バイタルサイン測定方法及びアセスメントのポイントを理解し、正しい測定方法を習得する。
3. 全身の系統的なフィジカルイグザミネーションの実際を理解する。
4. 心理・社会的側面のアセスメントの意義を理解する。

回	日時	主題	学習内容	学習方法
1		看護におけるヘルスアセスメント フィジカルアセスメントに必要な基本技術	1.フィジカルアセスメントとは 2.フィジカルアセスメントの基本技術 (問診、視診、触診、聴診、打診) 3.体表解剖	講義
2		生命維持のためのアセスメント 生命徴候の観察①	1.バイタルサインとは 2.バイタルサインの測定(1) 体温・脈拍・呼吸の測定 3.経過記録の記入方法・読み取り方	講義
3		系統的なフィジカルイグザミネーション① 呼吸系	1.胸部の観察の視点とアセスメント1 2.生命維持に必要な観察の視点 ～酸素を取り込む～	講義
4		系統的なフィジカルイグザミネーション② 循環系	1.胸部の観察の視点とアセスメント2 2.生命維持に必要な観察の視点 ～酸素・栄養を送り出す～	講義
5		生命徴候の観察②	1.バイタルサインの測定(2) 血圧の測定	講義
6		系統的なフィジカルイグザミネーション③ 末梢循環系・外皮・体表面	1.末梢循環の観察の視点とアセスメント 2.外皮の観察の視点とアセスメント 3.日常生活に必要な観察の視点 ～酸素・栄養を運ぶ～	講義
7		系統的なフィジカルイグザミネーション④ 腹部・消化器系	1.腹部の観察の視点とアセスメント 2.日常生活に必要な観察の視点 ～食べる・排泄する～	講義
8		系統的なフィジカルイグザミネーション⑤ 筋・骨格系	1.運動系の観察の視点とアセスメント	講義
9	2.日常生活に必要な観察の視点 ～動く・歩く～			
10		系統的なフィジカルイグザミネーション⑥-1 脳・神経系	1.脳神経の観察の視点とアセスメント 2.生命維持に必要な観察の視点 ～意識～	講義
11		バイタルサイン測定技術チェック		講義
12				
13		系統的なフィジカルイグザミネーション⑥-2 脳・神経系	3.日常生活に必要な観察の視点 ～見る・聞く・話す・感じる・姿勢の保持～	講義
14		患者さんのサインを読み取るフィジカルア セスメント	焦点を絞って重点的に情報を得る方法	講義
15		全人的アセスメントとは	心理・社会的側面のアセスメントの必要性	講義

技術チェック:バイタルサイン測定 評価表:「看護技術学習ノート」をもとにした技術評価表

評価	筆記試験:60点 技術評価:10点 授業態度・課題:30点
使用テキスト	フィジカルアセスメントが見える(メディックメディア)
	ナーシンググラフィカ 第19巻ヘルスアセスメント
参考テキスト	書いて覚える解剖生理ワークブック(照林社)
	看護技術プラクティス(学研)

【備考】

- ※赤・青の筆記用具を毎回持参してください。
- ※お互いの身体を使って演習していきますので、薄手で動きやすい服装で参加してください。
- ※必要物品の*印は学校にある物を使用します。(当日に事前準備のご協力をお願いすることがあります。)
- ※授業内容は進行状況で変更することがあります。

授業概要

授業科目	単位 (時間)	担当講師(実務経験)
基礎看護学Ⅶ① (看護過程)	1単位 (30時間)	専任教員 (臨床実務経験有)
対象学生/時期	回生	
科目目標	看護を実践するための看護過程展開	
学習目標	1. 看護過程の目的・方法が理解できる。 2. データベースの枠組みについて理解できる。 3. 病態関連図の意義と方法が理解できる。 4. 看護診断プロセスが理解できる。 5. 紙上患者のアセスメント・看護診断・看護計画の立案の方法が理解でき	
日時	学習内容	備考(授業形態)
1	1. 看護過程とは 2. 看護過程を実践するための思考方法 1) クリティカルシンキング 2) リフレクション 3) 問題解決法	ひらめき、予測、事実、データから問題を解決しよう。 グループワークで物事の正しい見方・考え方を探ろう。 講義・GW
2	3. 看護過程の変遷 1) 看護理論と看護過程 2) 看護診断の発展	看護過程事例の提示 講義
3	4. 看護過程の構成要素とその進め方 A アセスメント データベースアセスメントの枠組み データベースアセスメントとは データとは、医療情報とは、情報源	ゴードンの11の機能的健康パターン 課題① グループ課題 講義・GW
4	A アセスメント データベースアセスメント (演習)	課題① 個人課題 (事例学習) 講義・GW
5	A アセスメント データベースアセスメント (演習)	課題② 個人課題 (データベースアセスメント) 提出日時: 講義・GW
6	A アセスメント データベースアセスメント (演習)	講義・GW
7	A アセスメント 情報の分類・整理・分析 (演習)	課題③ 個人課題 (問題の仮説) 講義・GW
8・9	A アセスメント 問題 (課題) 仮説の推論・統合	課題④ 個人課題 (問題の推論・統合) 講義・GW
10・11	NANDA-I看護診断の構造と理解 A アセスメント フォーカスアセスメント B看護上の問題点の明確化	課題⑤ 個人課題 (フォーカスアセスメント) 提出日時: 講義・GW
12	C看護計画立案 目標の設定 (RUMBAの法則) 目標と評	課題⑥ 個人課題 (看護計画) 講義・GW
13	D 看護計画に沿った看護の実施 E 評価	講義・GW
14	関連図の目的・方法 臨床で遭遇しやすい看護診断とその考え方	問題焦点型 (皮膚統合性障害) リスク型 (褥瘡リスク状態) の例 講義・GW
15	試験	最終提出の内容・期限を伝える
<テキスト・文献> 1. 基礎看護技術 第20巻 (メディカ出版) 2. NANDA-I (医学書院) 3. ゴードン博士の 4. 治療薬マニュアル 5. 検査値辞典 6. これなら使える看護診断 (医学書院) 7. 対症看護 8. その他の文献は、必要時説明します。		
<評価> 筆記試験 80点 課題学習 20点 合計 60点以上で合格		

基礎看護学Ⅶ②（看護記録と教育指導技術）

1. 単位 : 1単位 (30時間 15回)

2. 担当講師(実務経験) : 専任教員(臨床実務経験有)・看護師(慢性呼吸器疾患認定看護師)

3. 学習のねらい : チーム医療において自分が実践した看護を他者と共有するための手段としての看護記録のあり方について学ぶ。

4. 学習目標 :
- 1) 看護記録に含まれる要素が説明できる。
 - 2) 基礎看護学の講義における自己の演習場面をリフレクションできる。
 - 3) 実習における記録用紙間の関連が説明できる。
 - 4) 看護記録の記載に伴う責任と法律について説明できる。
 - 5) 看護に必要な基礎的な指導教育技術を学ぶ。

回数	月日	主題	学習内容	学習方法	備考	
1		記録の目的と特徴	記録にはどんなものがあるだろう。 含まれる要素から記録の特徴を考えよう。	GWを主とした演習で進める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回講義の後に事後課題を配信。次回の講義までに100点になるまで取り組む事！！ 事後課題① 事後課題② 事後課題③ 事後課題④ 事後課題⑤ 事後課題⑥ 事後課題⑦ 事後課題⑧ 事後課題⑨ 事後課題⑩ 事後課題⑪ 事後課題⑫ 	
2		事象を描写すること	主観的情報と客観的情報が必要な理由 誰もが同じ状況をイメージするため			
3		感情を記録すること	感情を振り返るにはどうするか。 内面の何を振り返るのか。			
4		評価すること	目標に対する結果から、何が良くて何が悪かったのかを問いかけてみよう。			
5		分析すること	その状況から何が分かるのか。 何を根拠として、どのように考えるの判断の基準となるものは。			
6		統合すること	つまりどういうこと・・・ 事象の過程が意味することについて考える。			
7		行動計画に反映すること	再び同じ状況になった時に、どうするのか。 今後にどのように活かせるのか。			
8		看護実践を要約する	看護要約の事例から、内容に含まれる要素を確認する。			
9		リフレクションの実践	基礎看護学Ⅳの演習場面をリフレクションする。			
10		看護実践と思考を表明するための記録用紙間のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護過程のための思考を記録を使ってどのように進めるのか。 患者プロフィール・データ～看護計画経過記録 (DAR・SOAP) のつながり ・ 看護記録から読み取れることは何 			
11						
12		看護記録に関わる責任と法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の情報を保護すること ・ 看護記録は法的証拠となること (DVDの場面から看護記録のもつ重要性を考える) 			
13		看護における教育活動	看護の教育技能・指導技術の基本指導のすすめ方			講義
14						
15		試験 (筆記試験は実施しない)	基礎看護学実習Ⅰ-②に向けた講義のまとめ			

5. 評価

- ・ 毎回の講義後の確認試験が100点になっていること。
- ・ その他、指示された課題の提出状況

6. 文献

- ・ デジタルナースンググラフィカ
 - ・ NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020 (医学書院)
- その他随時紹介する。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
基礎看護学Ⅷ (検査と看護)	専任教員 (臨床実務経験有)	1	30	15
ねらい	診療・治療過程における看護の役割を理解し、検査に必要な基礎的看護技術を習			
【学習目標】	1 治療場面における検査の意義と検査時の看護の役割を理解する。 2 静脈血採血の技術を習得する。 3 目的にあわせた包帯の方法を理解する。			
回数	日程	主題	学習方法	
1		包帯法	講義・演習	
2		検査の種類と分類 検査を受ける患者の理解 ・勤労者と検査 検査における看護師の役割	講義	
3		検査の種類 (生体検査・検体検査) 検査を受ける患者の看護① 検体検査	講義	
4		検査を受ける患者の看護② 検体検査	講義	
5		検査を受ける患者の看護③ 生体検査	講義	
6		心電図測定の実際	講義・演習	
7		血糖測定について	講義・演習	
8		血糖測定の実際	演習	
9		静脈血採血 (目的と適応、部位、血液検体の取り扱い、感 染性廃棄物)	講義・演習	
10		静脈血採血①	講義・演習	
11		静脈血採血② (真空採血管による実際)	演習	
12		静脈血採血③ (真空採血管による実際)	演習	
13		静脈血採血の実施	技術評価	
14				
15		まとめ/筆記試験		

【評価方法】： 筆記試験80点 / 技術評価10点 / 授業態度・課題10点

【テキスト】

- 1 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メジカルフレンド社)
- 2 看護技術プラクティス第3版 (学研)
- 3 パーフェクトガイド 検査値事典 第2版 (総合医学社)
- 4 新改訂版 看護に生かす検査マニュアル (サイオ出版)

【技術の種類】

- ・目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる (Ⅱ)
- ・簡易血糖測定ができる (Ⅱ)
 - ・正確な検査が行えるための患者の準備ができる (Ⅱ)
- ・検査の介助ができる (Ⅱ)
 - ・検査後の安静保持の援助ができる (Ⅱ)
 - ・検査前・中・後の観察ができる (Ⅱ)
 - ・モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる (Ⅲ)
 - ・学生間で基本的な包帯法が実施できる (Ⅲ)

基礎看護学区 [薬物療法と看護] (1単位30時間 : 14回+試験1)

授業科目	担当講師(実務経験)
基礎看護学区	専任教員(臨床実務経験有)

学習のねらい：薬物療法における看護の役割・責任を理解し、与薬に必要な基礎看護技術を習得する

<学習目標>

1. 薬物療法における看護師の役割と責任を理解する
2. 薬物療法が生体に及ぼす影響を理解する
3. 薬物の取り扱いについて理解する
4. 安全な与薬をするための基礎知識を理解する
5. 薬剤の目的に応じた与薬の方法を理解する
6. 安全な注射の実施方法を理解する
7. 対象のアセスメントに沿った安心・安全な薬物療法について理解する
8. 臥床している対象に筋肉内注射ができる(中殿筋)

回	日付	主題	学習内容	方法
1		薬物療法の基礎知識	1. 薬物療法における看護師の役割と責任 2. 薬物療法に関する法的責任と権限 3. 与薬の指示と情報の読み方	講義・演習
2		薬物療法を受ける患者の生活	1. 薬物コンプライアンスを高めるための工夫 2. 持続点滴静脈内注射を受けている患者の生活	演習
3		薬物療法の種類と方法①	1. 薬物療法の種類(内用薬・外用薬・注射) 1) 経口与薬 2) 外用薬(経皮・吸入・坐薬・点眼・点鼻・軟膏)	講義・演習
4		薬物療法の種類と方法②	1. マンネン人形への直腸内与薬の実施	演習
5		注射法の基礎知識	1. 注射法における看護師の役割 2. 注射に必要な器具とその取り扱い方法	講義・演習
6		注射法の種類と方法①	1. 注射の指示と情報の読み方 2. 注射の手順と実施上の留意点 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射	講義・演習
7				
8		注射法の種類と方法②	1. 注射の手順と実施上の留意点 1) 静脈注射・点滴静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の固定 3) 滴下の計算と調整	講義・演習
9				
10		薬物療法を受ける対象のアセスメント	1. アセスメントの視点と実際 ※ベア学生の「与薬に必要な基礎知識」の記入	講義・演習
		安心・安全な注射を実施するために	1. 患者に納得していただくための説明と同意の方法 2. 適切な注射部位の選択	異学年交流学習
11		薬物療法に関する医療安全	1. 薬物療法に関する事故の実際 1) 誤薬 2) 針刺し 3) 副作用・アナフィラキシーショック 2. 安全・安心な与薬のための技術	講義・演習
12		中殿筋への筋肉内注射	技術チェック	
13				
14		点滴静脈内注射の準備と実施	技術チェック	
15		試験		筆記

技術チェック：モデル人形への筋肉内注射 評価表：「看護技術学習ノート」をもとにした技術評価表

技術チェック：モデル人形への点滴静脈内注射 評価表：「看護技術学習ノート」

評価	筆記試験：75点 技術評価：10点 授業態度およびレポート(与薬に必要な基礎知識)：15点
使用テキスト	わかりやすい与薬 第6版 (テコム) 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ (ぎょうせい社) 看護技術プラクティス 第3版 (学研)

参考文献

治療薬マニュアル2018 (医学書院) 改訂版

ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち②臨床薬理学 (メディカ出版)

授業概要

授業科目	担当講師(実務経)	単位	時間	回数	
基礎看護学X-① (臨床看護総論)	専任教員 (臨床実務経験有)	1単位	15時間	7回+試験	
ねらい 健康段階の各期の特性を知り、健康上のニーズを持つ対象者とその家族への援助の基本を理解					
【 学習目標 】					
1 人間のライフサイクルと健康上のニーズを知り、ライフサイクルに応じた看護の特性を述べる事ができる。					
2 健康段階別に特徴的な健康ニーズについて知り、看護の役割を述べる事ができる。					
3 健康段階別に応じた家族の健康上のニーズを知り、看護の役割を述べる事が出来る。					
4 主要な症状(発熱・深部静脈血栓症)を示す対象への看護を理解する。					
回数	日時	主題	担当	学習方法	
1	2月1日 8:50~10:20	1. 健康状態の経過に基づく看護 健康段階とは。		講義	
2	2月5日 8:50~10:20	2. 急性期・回復期の健康段階の特性 急性期の健康段階にある患者の特徴・その家族の 回復期の健康段階にある患者の特徴・その家族の		講義	
3	2月15日 10:30~12:00	3. 慢性期・終末期(予後不良)の特性 慢性期の健康段階にある患者の特徴・その家族の 終末期の健康段階にある患者の特徴・その家族の		講義/演習	
4	2月21日	4. 健康段階を判断するための技術 観察方法・思考技術(情報の吟味、優先度の原則)		講義/演習	
5	2月21日 8:50~12:00	体温異常時の患者の看護 体温の異常と生体の反応 体温異常のメカニズム 高体温(発熱時)・低体温時の看護 体験しよう!温罨法・冷罨法			
6	2月25日 13:10~14:40	深部静脈血栓とは 発生要因と予防方法			講義
7	2月27日 13:10~14:40	体験しよう! 各種包帯法 ※包帯・三角巾の準備を			講義/演習
8		試験			
評価方法	1~3回目(50点) 事前課題・筆記試験 4~7回目(50点) 筆記試験				
使用テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術I(メジカルフレンド社) 系統看護学講座 専門I 臨床看護総論 基礎看護学④(医学書院) 看護技術プラクティス第3版(学研) フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア)				
参考文献					

授業科目	担当講師(実務経験)	単 位	回数		
基礎看護学X-② (臨床看護総論)	専任教員(臨床実務経験有) 中部労災看護師(慢性呼吸認定看護師) 中部労災看護師(皮膚排泄ケア認定看護師)	1 単 位	15回(試験)		
ねらい	健康上のニーズを持つ対象者とその家族を理解し、健康状態の経過に特有な症状、治療・処置時の看護の基本を理解する				
【学習目標】					
1. 療養の場における健康上のニーズと看護を理解する 2. 主要な症状(呼吸困難・排尿困難)を示す対象への看護を理解する 3. 主要な治療・処置時(創傷・褥創予防・褥創処置)の看護を理解する 4. 対象の状況に応じ、適切な看護を実践するための看護の思考過程と実践時の基本を学ぶ					
回数	日時	主題	学習内容	担当	学習方法
1		救急蘇生が必要な患者の看護	基礎X-②の進め方 一次救命処置(BLS)		講義・演習
2		対象の状況に応じた看護援助の思考過程①	対象の状況に応じて、安全と安楽に 課題事例紹介 「化膿性脊髄炎で持続静脈内点滴注 射実施中の75歳 岡松さん(女性) の寝衣交換」		講義・演習
3					
4					
5		対象の状況に応じた看護援助の思考過程②	手順表作成の進め方		講義・演習
6		対象の状況に応じた看護援助の思考過程③	4/24代表グループによるプレゼンテーション		
7		排尿困難を訴える患者の看護①	排泄ケアの適応と種類 導尿の目的と適応 一時的導尿の方法・留意点 持続的導尿(膀胱内留置カテーテル挿入)		講義・デモ
8		排尿困難を訴える患者の看護②	実践してみよう! 一時的導尿 基礎・成人実習室		演習
9		創傷・褥瘡のある患者の看護①	事例学習		講義
10		創傷・褥瘡のある患者の看護②	褥瘡発生のメカニズム 褥瘡の分類 褥瘡アセスメントと褥瘡保有者への		講義
11		呼吸困難を訴える患者の看護①	事例学習		講義
12		呼吸困難を訴える患者の看護②	酸素療法の種類と方法 排痰法のいろいろ		講義・演習
13		排尿困難を訴える患者の看護③(侵襲を伴う 排泄ケア)	一時的導尿(女性)		技術チェック
14					
15		試験			
評価方法	北田 記述課題(手順表作成) 20点 筆記試験 75点 学習態度 5点 ①看護技術学習ノートへの振り返り(□5項目)記述(提出義務有) ②授業中および技術練習状況など				
使用テキスト	①系統看護学講座 専門I 臨床看護総論 基礎看護学④(医学書院) ②看護技術プラクティス第3版(学研) ③フィジカルアセスメントがみえる(MEDIC MEDIA) ④新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術I・II(メジカルフレンド社) ⑤看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版 学研 ⑥看護技術学習ノート・・・裏面参照				
事前学習	ゴール設定ワーク中に Lean0 コース名 48回生基礎看護学X-② 講座名 一時的導尿 使用テキスト②④を参考に上記DVDを視聴し、技術の根拠を学習しておきましょう。				

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間	
基礎看護学実習Ⅰ-①	専任教員(臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	6	45
基礎看護学実習Ⅰ-②	専任教員(臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)		39	

基礎看護学実習のねらい

少子、高齢社会の進展、医療技術の進歩とともに、看護職に期待される役割や実践能力は多様化してきている。人々の健康と生活ニーズに応えるためには、人を幅広く理解し、その価値観とともに健康上の課題を捉える必要がある。また、看護実践においては、コミュニケーション能力とともに健康や障害の状態を適切に判断し、科学的根拠に基づいた看護が実践できるための能力が求められる。

基礎看護学は看護の基礎的な実践力として、各看護学の基盤となる基礎的理論や基礎看護技術を身につける段階となる。そこで看護を提供する対象を理解し、そのニーズに応えるための看護者としてよりよい人間関係を形成し、看護実践の意味と根拠を学ぶ。それにより、対象の日常生活援助を中心に看護行為の基礎となる実践力の育成を目指す。

学習目標	基礎看護学実習Ⅰ-① 1) 患者の療養環境を知る。 2) 臨床における看護活動の実際を知る。 3) 体験を通して看護師を目指す上での自己の課題を考えることができる。		
1	患者の療養環境	①病室と病床の環境 ・室内気候(温度、湿度、気流など)、騒音、採光と照明、臭気、色彩・ベッド、ベッド柵、オーバークラッシュテーブル、床頭台、ナースコール・プライバシー、環境調整方法 ②病棟の構造 ・個室、多床室、浴室、トイレ、デイルーム、廊下	1. 実習開始の挨拶・打合わせを行う。 2. コミュニケーション場面、援助場面、診療に伴う援助の見学を行う。
2	臨床における看護活動の実際	①看護の対象(発達段階・身体状況・社会的役割) ②コミュニケーションの実際 ③日常生活援助の実際 ④診療に伴う援助の実際	3. 学生ミーティングを行う。
3	体験を通して看護師を目指す上での自己の課題を考える	ミーティング ・体験の振り返り(リフレクション) ・これから看護について学んでいく上での自己の課題	4. 実習課題レポート: テーマ「実習を通して学んだこと」
評価: 実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。 単位認定は、基礎看護学実習Ⅰ-②と合わせて算定される。			
学習目標	基礎看護学実習Ⅰ-② 1. 健康障害をもつ対象の情報収集ができる。 2. 患者の状況にあわせた日常生活援助について理解する。 3. 看護場面における「患者-看護師」の人間関係を形成するためのコミュニケーションについて理解する。 4. 実習に必要な学習姿勢を身につける。		
1	健康障害をもつ対象の情報収集	・情報収集計画を立て方・インタビュー方法・身体診察・診療録の見方・日常生活援助からわかるデータ	1. オリエンテーションを受ける。 2. 受け持ち患者を決定する。 3. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める。
2	患者の状況にあわせた日常生活援助	・清潔援助、排泄援助、食事・水分摂取の援助、整容援助、姿勢保持の援助、移動動作の援助、病床、病室環境の整備	4. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 5. 担当看護師と振り返る
3	看護場面における「患者-看護師」の人間関係形成のためのコミュニケーション	患者の心理をとらえた看護師の関わり 援助場面における患者-看護師の関係	6. ミーティングに参加する。
4	実習に必要な学習姿勢	・実習課題達成に向けた計画、実践 ・当日目標・行動計画の立案 ・適切な言葉遣いなど基本的なマナー ・自己の健康管理	
評価評価: 出席・実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。 単位認定は、基礎看護学実習Ⅰ-①と合わせて算定される。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
基礎看護学実習Ⅱ	専任教員(看護師臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	90

基礎看護学実習のねらい

少子、高齢社会の進展、医療技術の進歩とともに、看護職に期待される役割や実践能力は多様化してきている。人々の健康と生活ニーズに応えるためには、人を幅広く理解し、その価値観とともに健康上の課題を捉える必要がある。また、看護実践においては、コミュニケーション能力とともに健康や障害の状態を適切に判断し、科学的根拠に基づいた看護が実践できるための能力が求められる。

基礎看護学は看護の基礎的な実践力として、各看護学の基盤となる基礎的理論や基礎看護技術を身につける段階となる。そこで看護を提供する対象を理解し、そのニーズに応えるための看護者としてよりよい人間関係を形成し、看護実践の意味と根拠を学ぶ。それにより、対象の日常生活援助を中心に看護行為の基礎となる実践力の育成を目指す。

学習目標	1) 対象の健康問題についてアセスメントし看護診断・看護計画の立案ができる。 2) 立案した看護計画にそって日常生活援助を実施、評価できる。 3) 対象の個別性をふまえた日常生活援助技術を習得する。 4) 看護実践を通して、患者－看護師の人間関係から看護者としての自己を振り返る。		
1	対象の理解と看護過程展開	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集計画を立て方 ・インタビュー方法 ・身体診査方法 ・診療録の見方と取り扱い方法 ・日常生活援助からわかるデータの意義 ・観察法の組み合わせと応用 ・コミュニケーションのあり方 ・看護過程展開の技術 	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める。 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。
2	日常生活援助の計画実践と評価	患者の状況に応じた下記項目の計画策定と評価方法 (清潔援助、排泄援助、食事・水分摂取の援助、整容援助、姿勢保持の援助、移動動作の援助、病床、病室環境の整備)	10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	日常生活援助の実践	援助場面における患者の心理をとらえた看護師の関わり 援助場面における患者－看護師の関係 目標達成に効果的な生活援助技術(清潔援助、排泄援助、食事・水分摂取の援助、整容援助、姿勢保持の援助、移動動作の援助、病床、病室環境の整備)の習得	
4	看護者としての自己の内省と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションを用いた思考方法 ・看護観 ・学習マネジメントの在り方 ・グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。 単位認定は、基礎看護学実習Ⅰ－②と合わせて算定される。			

成人看護学 I

担当講師(実務経験)	単位	時間数
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間(14回+試験)

学習のねらい: 成人期の対象の特徴と健康レベルに応じた看護の役割を理解する。

学習目標:

1. 成人期の対象の特徴と健康問題を理解する。
2. 成人期の対象の健康を守るための保健・医療・福祉の概要と動向について理解する。
3. 成人期の対象の看護に必要な理論・考え方を理解する。
4. 成人期の対象の健康レベルに応じた看護の役割・機能を理解する。

回	日程	学習内容	方法
1		1.成人看護学とは 2.成人期にある対象の理解①～成人(大人)とは～	講義・演習
2		成人期にある対象の理解② ～成人期にある人の発達課題と発達危機	
3		成人期にある対象の理解③ ～成人を取り巻く社会環境と成人の生活～	
4		成人期にある対象の理解④ ～成人の学習の特徴 アンドラゴジー～	
5		成人の保健問題の動向と関連要因	講義 グループワーク
6		成人期にみられる保健問題と対策①	
7		成人期にみられる保健問題と対策②	
8		成人期にある対象の健康レベルに応じた看護の機能・役割の理解	講義
9		健康レベルに対応した看護と看護実践に必要な理論 ①生命危機状況 ②生活行動障害 ③疾病コントロール ④予後不良	講義 事例学習
10			
11			
12			
13			
14			
15		試験	

評価	筆記試験: 80点 授業中の課題: 20点
使用テキスト	テキスト ①ナーシンググラフィカ23巻成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版 ②国民衛生の動向 2018/2019 厚生統計協会 参考文献 佐藤栄子ほか: 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研

担当講師(実務経験)
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)
看護師(慢性呼吸器疾患看護認定看護師)
看護師(皮膚排泄ケア認定看護師)

学習のねらい：

生命(健康)の危機的状況から生活を取り戻す時期にある対象を理解し、生命維持および生活の回復に向けての援助を学ぶ

<学習目標>

1. 生命(健康)の危機的状況から健康を取り戻す時期にある対象を理解する
2. 周術期における看護の役割・機能を理解する
3. 肺切除術を受ける患者の看護を理解する
4. 急性心筋梗塞患者の看護を理解する
5. 人工肛門造設術を受ける患者の看護を理解する

回	日時	主題	内容	方法	担当	日付 実施印
1		生命(健康)の危機的状況から健康を取り戻す時期にある対象の理解	1. 生命(健康)の危機的状況と対象の健康問題 2. 外科的治療の歴史と近年の動向と看護 3. 周術期とは 4. 周術期各期と看護の役割	講義		
2		周術期の看護	1. 手術前看護 外来通院中から入院まで 入院から手術当日まで	講義 ①		
3	2. 手術中看護 手術室入室から退室まで 術中患者の生命管理・安全管理		講義 ①			
4	3. 手術後患者の看護 手術侵襲と生体反応 術後の身体状況と予測される合併症の予防		講義 ①			
5	4. 集中治療が必要な患者の看護 1) 集中治療室の環境 2) 集中治療が必要な患者の特徴 3) 患者の観察とアセスメント		講義 ①			
6		肺切除術を受ける患者の看護	1. 肺がんにて肺葉切除術を受ける患者の看護 事例学習① *術前アセスメントと看護計画 低圧持続吸引器使用中の看護 ☆呼吸器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③④		
7						
8						
9		急性心筋梗塞患者の看護	1. 急性心筋梗塞にて手術適応となった患者の看護 事例学習② 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション時の看護 *成人看護学実習の急性期看護記録を 使ってみよう ☆循環器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③⑤		
10						
11						
12		人工肛門造設術を受ける患者の看護	1. 大腸がんで人工肛門造設術を受ける患者の看護 事例学習③ 対象の発達課題の達成状況 *関連図を書いてみよう ☆消化器解剖生理小テスト	講義 GW 演習 ①②③⑥		
13						
14						
15		試験				

評価 筆記試験：100点

*マークは成人看護学実習時の記録用紙を使用します

使用テキスト

- ① 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
- ② 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
- ③ 疾患別 看護過程の展開 第4版 学研

参考テキスト

- ④ 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院
 - ⑤ 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院
 - ⑥ 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院
- 看護学生のための解剖生理よくわかるBOOK ㊦ 加ルド 社 など

成人看護学Ⅱ-B [生命危機状態]

担当講師(実務経験)	単位	時間
専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間

学習のねらい: 生命危機状態にある対象に対し生命維持及びセルフケアの再獲得(生活の回復)に必要な看護を学ぶ

学習目標:

1. 生命危機状態から健康を取り戻す時期にある対象を理解する。
2. 生命危機状態から健康を取り戻す時期にある対象の看護。

回	日時	主題	学習内容	方法/場所
1		生命危機状態にある対象	生命危機状態とは 生命危機状態にある患者・家族の特徴	講義
2		生命危機状態にある対象の看護	生命危機状態時の看護と看護理論	講義
3			全身管理と日常性への看護～ICUの看護～	講義
4			呼吸を整える援助 一時吸引を受ける患者の看護	講義/演習
5				演習
6				演習(技術チェック)
7				
8			脳出血患者の看護	入院から治療までの看護
9		脳血管攣縮期の看護		講義/演習
10		回復期の看護		講義/GW
11		心筋梗塞患者の看護	発症・入院から治療までの看護	講義
12			心臓カテーテル検査の看護～検査前・検査中～	講義
13			心臓カテーテル検査の看護～検査後～	講義
14			冠状動脈バイパス術を受ける患者の看護	講義/GW
15			心臓リハビリテーションについて	講義/GW
		試験		

評価	筆記試験:80点 技術評価:10点 授業中の課題:10点
使用テキスト	専門Ⅱ成人看護学7脳・神経 医学書院
	専門Ⅱ成人看護学3循環器 医学書院
参考テキスト	病気がみえる2循環器 メディックメディア

回生	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	講義回数
	成人看護学Ⅲ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有)	1	30時間	15回

学習のねらい

生活行動に障害をもつ（成人期）の対象の健康問題を理解し、健康の保持・増進に必要な看護を学ぶ。

- 学習目標
- 1 生活行動障害のある対象の特徴を理解する。
 - 2 生活行動障害が成人期の対象に及ぼす健康問題を理解する。
 - 3 生活行動障害のある対象の看護の目的を理解する。
 - 4 リハビリテーションにおける看護の役割を理解する。
 - 5 生活行動に障害のある対象に必要な援助技術を習得する。

回数	日付	学習内容	方法
1		生活行動に障害をもつ対象の特徴を理解する。 ・生活行動障害とは ・国際生活機能分類（ICF） ・生活行動障害のある対象の健康問題 ・生活行動障害が成人期の対象に及ぼす影響の理解	講義
2		脊髄損傷患者の看護	講義
3		①基礎知識	GW
4			
5		脊髄損傷患者の看護	講義
6		②アセスメント ③関連図 ④看護診断 ⑤看護計画	演習
7		「# 褥瘡リスク状態」	GW
8		⑥手順表作成（陰部洗浄）	
9			
10			
11		運動機能障害者の援助 ・膝伸展下肢挙上運動（SLR）・大腿四頭筋等尺性収縮運動（セッティング）・リフター操作 ・廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる（看護技術学習ノートp26） *VTR視聴:リハビリテーション医学 Vol.6脊髄損傷、脊損患者のトランフォーム *DVD視聴:動画で学ぶ脊損のリハビリテーション	講義 演習
12		生活援助の実践（陰部洗浄） グループによる発表 発表後、全体討議	演習 講義
13		・陰部の清潔保持の援助ができる。（看護技術ノートp32）	
14		感覚障害のある患者の看護 ・視覚障害のある患者の歩行介助 ・聴力障害のある患者	講義 演習
15		試験（筆記試験70点 課題30点）	
教科書		成人看護学概論（Novelle Hirokawa） 系看 専門Ⅱ 成人看護学（1）成人看護学総論・成人保健（メヂカルフレンド社） 系看 専門Ⅱ 成人看護学（10）運動器（医学書院） QOLを高めるリハビリテーション（医歯薬出版） NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018—2020（医学書院） 看護過程に沿った対症看護（学研） 疾患別看護過程の展開（学研）	

授業科目／ 単位	成人看護学Ⅳ ／1単位（30時 間）	担当講師 （実務経験）	専任教員（成人看護領域臨床実務 経験有） 看護師（糖尿病看護認定看護師）
対象学生／時 期			
学習ねらい：生涯にわたって疾病コントロールが必要な対象の健康問題を理解し、セルフケア能力の 向上に 必要な看護を学ぶ。			
学習目標 1. 生涯にわたって疾病コントロールが必要な対象を理解する。 2. 疾病コントロールが必要な看護を理解する。			

授業概要

構成と担当：

	日程	学習内容	授業方法
1		疾病コントロールが必要な対象 疾病コントロールが必要な対象 に使用される看護理論やモデル	講義
2		疾病コントロールと看護の役割	講義
3		糖尿病患者の看護 経過と看護 の特徴	講義
4		糖尿病患者の看護過程①	講義・演習
5		糖尿病患者の看護過程②	講義・演習
6		糖尿病患者の看護① 自己管理指導	講義・演習
7		COPD患者の看護 経過の特徴 と看護	講義
8		COPD患者の看護過程① 事例学 習	講義・演習
9		COPD患者の看護過程② 事例学 習	講義・演習
10		糖尿病患者の看護② 自己管理指導 インスリン注射	講義・演習
11		COPD患者の看護過程③ 事例学 習	講義・演習
12		糖尿病患者の看護③ 自己管理指導 ・インスリン注 射	講義・演習
13		肝硬変患者の看護 経過の特徴と 看護	講義
14		肝硬変患者の看護過程①事例学習	講義・演習
15		肝硬変患者の看護過程②事例学習	講義・演習
		試験 まとめ 筆記 70点 課題30点	

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	時間	単位	回数
	成人看護学V	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 看護師(がん性疼痛看護認定看護師) 看護師(がん化学療法認定看護師)	30時間	1単位	15回・試験

I. ねらい

1. 予後不良の状態生活を営んでいる成人期の対象とその家族の健康問題を理解し、QOLを高めるために
2. 予後不良の状態生活を営んでいる対象の看護を理解する。

II. 目標

1. 予後不良の状態にある対象を理解する。
2. 緩和ケアにおける看護の役割、機能を理解する。
3. 白血病患者の看護を理解する。
4. 乳がん再発患者の看護を理解する。
5. AIDS患者の看護を理解する。

III. 計画

日付	内容	担当	方法	テキスト
1	予後不良と終末期患者 人間にとっての死		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
2	予後不良にある対象の理解 (死の受容過程、全人的苦痛とは)		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
3	スピリチュアルケアとは		講義 VTR視聴	ナシググラフィ「緩和ケア」
4	白血病患者の看護 経過の特徴と看護 *ゴールワーク中の課題を出します		講義	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
5	白血病患者の看護過程①(事例学習)		講義 GW	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
6	白血病患者の看護過程②(事例学習)		講義 GW	医学書院「血液・造血器」 NANDA-I看護診断
7	乳がん終末期患者の看護 経過の特徴と看護		講義	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
8	乳がん終末期患者の看護過程①(事例学習)		講義 GW	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
9	予後不良患者の治療 ～がんの治療 (化学療法、放射線療法)		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
10	乳がん終末期患者の看護過程②(アセスメント)		講義 GW	医学書院「女性生殖器」 NANDA-I看護診断
11	がん性疼痛緩和ケアその①		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
12	がん性疼痛緩和ケアその②		講義	ナシググラフィ「緩和ケア」
13	輸血療法とは		講義 VTR視聴	メヂカルフレンド「基礎看護技術II」
14	エイズ患者の看護 代替療法		講義	医学書院「アレルギー、膠原病、感染症」
15	試験			

※電子辞書を持っている人は持参してください(言葉の意味や血液検査データ値を調べることがあります)

IV. 評価 : 筆記テスト80点、課題20点で評価する

V. 参考文献: 適宜紹介

授業概要

授業科目／単位	老年看護学Ⅰ／1単位（30時間）	担当講師（実務経験）	専任教員（老年看護領域臨床実務経験有）
対象学生／時期	（1年生）後期		
学習目標	1. 老年看護の対象と老年看護の目的について理解する。 2. 老年者を取り巻く保健・医療・福祉の動向と課題を理解する。		
授業計画	学習内容	備考	
第1時	1. 老年期とは 1) 老年期の定義 2) ライフステージ 3) 老年期の発達課題 4) 老年者の生活史と生活観 5) 老年者の生き甲斐とQOL	講義	
第2時 ～第4時	2. 老化現象 1) 身体的変化 ①呼吸と循環 ②消化・吸収 ③排泄 ④内分泌 ⑤体力・運動能力 ⑥脳神経 ⑦感覚・知覚 2) 精神的変化 ①情緒的变化 ②人格の変化 ③記憶の変化 3) 社会的変化 4) 老化の要因	課題説明 グループワーク	
		グループワーク	
		発表	
第5時	3. 疾病の特徴	講義	
第6時	4. 老年看護の基本 1) 老年看護の基本姿勢 2) 老年看護活動の特徴 5. 老年観	高年齢者のための国連原則	講義 プリント課題
第7時 ～第9時	6. 老年者の安全管理 1) 転倒・転落防止 2) 身体拘束防止 3) 虐待防止	グループワーク	
		グループワーク	
		発表	
第10時 ～第11時	7. 高齢社会の動向 1) わが国の人口高齢化の特徴 2) 老年者の動向と課題（有訴者率・医療費） 3) 平均寿命の国際比較 4) 老年者の生活の特徴	講義	
		講義	
第12時 ～第13時	8. 社会保障の動き 1) 国民年金 2) 老人福祉法 3) 老人保健法 4) ゴールドプラン 5) 新ゴールドプラン 6) ゴールドプラン21 7) 介護保険法 8) 高齢者医療確保法	グループワーク	
		発表	
第14時	9. 老年看護の展開 問題解決型から目標志向型への転向	講義	
第15時	まとめ・試験		
評価の方法	筆記試験（90点）と授業態度・課題の提出（10点） 課題：冬期休暇中に課題に取り組む。レポートの内容・提出方法については講義時に説明する。		
教科書	北川公子他：系統看護学講座 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向		
参考文献	講義中に随時紹介する。		
その他	グループワークで使用する教材については事前に指示する。		

授業概要

授業科目／単位	老年看護学Ⅱ／1単位（15時 間）	担当講師(実務経験)	専任教員(老年看護領域臨床実務 経験有)
対象学生／時期	1年生 後期		
学習目標：加齢現象・生活障害に応じた老年看護の方法について理解する。			
授業計画	学習内容	備考(授業形態)	
第1・2時	A. 老年者の生活機能について—老年者擬 似体験	講義・演習 (疑似体験) 課題1：レポート 「老年者疑似体験を行って」	
第3・4時	B. 食事への援助 加齢が食に与える影響とケアの方法	グループワーク・発表	
	C. 生活リズムを整える援助 1) 日常生活を支える基本的活動 2) アクティビティケア 3) 入眠・睡眠を促す援助 ①高齢者の睡眠の特徴 ②良質な睡眠を促すケア	講義 課題2：レポート 「睡眠への援助」のレポート提出 1. 入眠・睡眠を意識した日中活動の援助 2. 患者の睡眠状況のアセスメント 3. 基本的な入眠を促す援助方法	
第5時	D. 転倒予防 1) 転倒事故 2) 転倒予防	講義	
	E. 排泄への援助 1) 老年者の排泄機能 2) 失禁ケア (1) おむつの種類と特徴 (2) 主な尿失禁用具と使用方法	実験 紙おむつ・尿取りパッドにはどのくらい の水分が吸収できるか考えてみよう	
第6時	F. 清潔・身だしなみへの援助 1) 老化と皮膚機能 2) 清潔援助の方法 3) 口腔ケア(義歯の取り扱い) 4) 衣生活への援助	講義	
第7時	G. コミュニケーション 1) 聴力障害の特徴 2) 難聴のある高齢者とのコミュニ ケーションの方法	講義・耳栓	
評価の方法	課題の提出(10点)と筆記試験(90点) 筆記試験：2019年 4月 実施予定		
教科書	北川公子他：系統看護学講座 老年看護学 医学書院 山田 律子他：生活機能からみた老年看護過程+病態生活機能関連図、医学書院		
参考文献	講義中に随時紹介する。		
その他	グループワークで使用する教材については事前に指示する。		

授業概要

授業科目/単位	老年看護学Ⅲ/1単位(30時間)	担当講師 (実務経験)	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 看護師(認知症看護認定看護師)
対象学生/時期	2年 前期		
学習目標	1. 高齢患者の看護過程展開の基本を理解する。 2. 認知症について理解し、QOLを高めるための看護の方法を理解する。		
授業計画	学習内容	備考	授業方法
第 1 講	1. 老年者の病気の特徴 2. 治療が高齢者に与える影響 A. 薬物療法と看護 1) 吸収・分布・代謝・排泄の変 2) 老年者に多く使われる薬剤の副作用	持参; 治療薬マニュアル	講義
第 2 講	B. 手術療法と看護 1) 術前のリスク管理 2) 術後合併症の予防	配付: 加齢と術後合併症	講義
第 3 講 4 講 5 講	3. 老年者データベースアセスメント 1) 高齢者にとってのアセスメントと意義(機能的健康パターン) 2) データベースアセスメントの視点 ①気になるデータのアセスメント ②持てる力のアセスメント	グループワークと発表 持参; ゴードン博士の看護診断アセスメントの配布; 老年看護学Ⅱ実習記録用紙	講義 GW
第 6 講 7 講	4. 老年看護過程の展開 1) 大腿骨頸部骨折患者のデータアセスメント 2) 関連図 3) フォーカスアセスメント	配付; 看護過程演習資料 持参; 第5講の発表資料	講義 GW
第 8 講 9 講	5. 高齢者へのアクティビティケア 音楽療法、集団レクリエーション、回想法、リアリティオリエンテーション、集団レクリエーション 音楽療法	配付; パワーポイント資料 グループワーク時の参考図書(DVD含む)はその時に紹介します。	講義 GW
第 10 講 11 講	6. 生活機能障害のアセスメントの維持期医療(介護老人保健施設)の視点	持参; 生活機能から見た老年看護過程 医学書 配付; 老年看護学Ⅰ実習記録用紙(事例入り)	講義 GW
第 12 講 13 講 14 講	7. 認知症看護 1) 認知症の病態・診断・症状 2) 認知症高齢者のアセスメント 看護の動向と関わり 3) 社会保障制度	パワーポイント資料	講義
評価方法	授業態度・課題の提出(20点)と筆記試験(80点)にて評価します。 筆記試験の配点: ○○(20点) ○○(60点)		
教科書	北川公子他: 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 山田 律子他: 生活機能から見た老年看護過程 医学書院 水野 裕: 実践パーソン・センタード・ケア 認知症を持つ人たちの支援のために、ワールドプランニング		
参考文献	講義中に随時紹介しますが、授業概要の【備考】を参照し準備して下さい。		
その他	演習・グループワーク等で使用する教材については事前に提示します。		

老年看護学Ⅳ 授業概要

授業科目/単位	老年看護学Ⅳ/1単位(30時間)	担当講師 (実務経験)	専任教員(看護師臨床実務経験有) 看護師(摂食・嚥下障害認定看護師)
対象学生/時期	2年生 後期		
授業のねらい	1. 紙上事例を通し、施設入居者の看護過程が理解できる。 2. 日常生活の自立やQOLを高めるための基本的な老年看護技術について理解できる。		
授業計画	学習内容	備考(授業形態)	
1回目	1. 老年看護過程演習 オリエンテーション 事例：介護老人保健施設に入所している高齢者 脳梗塞後の生活機能障害 嚥下障害 構音障害 右半身マヒ 感情失禁	老年看護学実習Ⅰ記録用紙 事例の確認 課題1(グループ)	
2回目	データベースアセスメント(生活機能に焦点を当てる)	①データベースアセスメント	
3回目	ケアニーズの考察について	②ケアニーズの考察	
4回目	成果の発表 まとめ 提出課題の説明		
5回目	2. 老年看護技術 A. 片麻痺患者の身体可動性を高める援助 ①車いすへの移乗の援助 ②拘縮予防のための良肢位保持 看護技術学習ノートP22(NO1) P25(NO7)	演習(実習室) 課題2(個人) 手順表作成(車いす移乗)	
6回目	B. おむつ交換の援助 ①臥床患者・座位患者のおむつ交換 ②失禁ケア・皮膚粘膜の ^{保護}	演習(実習室)	
7回目	C. 医療安全 転倒・転落事故防止 身体拘束と看護倫理	教室 課題3(個人) 医療安全レポート	
8回目	B. おむつ交換の援助(技術練習) 看護技術学習ノートP21(NO6, NO7)記載	演習(実習室)	
9回目	D. 老化現象を考慮した移動への援助(松葉づえ・一本杖・歩 ^{行脚})	演習(教室・体育館)	
10回目	老年看護技術チェック(おむつ交換) 看護技術学習ノートP21(NO6, NO7)記載	課題4(個人) 技術チェック	
11回目	E. 高齢者のターミナルケア		
12回目	E. 摂食・嚥下に関するアセスメント技術 ①摂食・嚥下のメカニズム ②摂食・嚥下に関するフィジカルアセスメント	演習(教室) 準備：舌圧子 氷水10ccシリンジ ペンライト コップ 手鏡 聴診器	
13回目	F. 摂食嚥下訓練 ①簡易的嚥下機能評価 ②直接訓練(食事援助)の方法 ※フィジカルアセスメントの復習を含む	演習(視聴覚・実習室) 氷水 注射器 ごみ袋 10ccシリンジ 準備： フリンorゼリー お茶 スプーン 聴診器 コップ	
14回目	F. 摂食嚥下訓練 ①間接訓練とは ②間接訓練の方法 ③口腔ケア 看護技術学習ノートP30(NO5) P34(NO12)	演習(視聴覚・実習室) ペンライト 準備： 手鏡 エフロン 歯ブラシ コップ 手鏡	
15回目	まとめ・試験	↑太字は学生が準備するもの	
評価の方法	筆記試験(80点)および課題(20点)にて評価し、合計60点以上で認定する。 筆記試験の配分は大石60点 廣瀬20点とする。		
その他	1) 学内演習時に使用する物品等については事前に提示する。 2) 技術チェック要領については技術チェック前に提示する。 3) 未達成の学生については授業時間外で再指導を行うが、詳細については技術チェック終了後決定する。		

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅰ (母性看護学概論・ 女性生殖器疾患看護)	専任教員(助産師 臨床実務経験有)	I単位	30時間	15回 (14回+試験・まとめ)

【学習のねらい】

母性看護学の対象と看護の役割を理解する。
女性生殖器疾患患者の看護を理解する。

【学習目標】

- 1) 母性看護の概念が理解できる。
- 2) 各ライフサイクルにおける母性看護の対象を理解できる。
- 3) 母性を取り巻く社会の変遷と現状が理解できる。
- 4) ライフサイクル各期における健康問題と看護が理解できる。

回数	日付	学習内容	方法・場所	備考
1		ライフサイクルとは —自分の生涯設計—	講義 (教室)	
2		リプロダクティブヘルス・ライツとは	講義 (教室)	
3		セクシュアリティについて考える	講義 (教室)	
4		母性の健康と社会—統計からみた母性看護—	講義 (教室)	
5		母性の健康と社会—母子保健に関する組織と法律—	講義 (教室)	
6		女性のからだのしくみ・女性の心理・社会的発達 各期における健康問題PART①	講義 (教室) グループワーク	
7		各期における健康問題PART②	(図書室・情報処理室)	
8		思春期における健康問題と	講義 (教室)	
9		思春期における健康問題と	講義 (教室)	
10		成熟期における健康問題と	講義 (教室)	
11		更年期・老年期における健康問題と看護	講義 (教室)	
12		女性生殖器疾患看護 (子宮がん・卵巣がん)	講義 (教室)	
13		女性生殖器疾患看護 (乳が	講義 (教室)	
14		(仮) 不妊について考える (母性看護における倫理)	講義 (教室)	
試験	【評価方法】			
	課題提出：①個人課題 (10点) ②グループ課題 (10点)			
	試験：筆記試験80点 (月 日)			
参考文献	系統看護学講座：母性看護学概論 母性看護学① (医学書院)			
	母性看護学各論 母性看護学② (医学書院)			
	女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)			
	国民衛生の動向			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅱ 妊産褥婦及び 新生児期の看護	専任教員(助産師 臨床実務経験有)	I単位	30時間	15回 (14回+試験・まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の看護を理解する。

【学習目標】

- 1) 妊娠期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 2) 分娩期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 3) 産褥期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 4) 新生児期にある対象の特徴及び看護について理解できる。
- 5) 勤労者としてのマタニティサイクルを考える。

回数	日付	学習内容	場所	学習方法
1		(母性Ⅰ復習テスト5問) イントロダクション～妊娠のしくみと疾患の理解	教室	講義・GW
2		妊婦の看護(初期から中期にかけて)	教室	講義・GW
3		妊婦の看護(出産準備と母親役割獲得)	教室	講義・GW
4		(妊婦の看護復習テスト5問) 事例を通して妊婦の看護を考える①	教室	講義・GW
5		事例を通して妊婦の看護を考える②	教室	講義・GW
6		分娩の生理	教室	講義・GW
7		分娩の種類(誘発分娩・無痛分娩・吸引分娩・帝王切開) 分娩の異常	教室	講義・GW
8		分娩時の看護	教室	講義・GW
9		産褥期の体のしくみ	教室	講義・GW
10		母親役割獲得への援助 母乳育児について	教室	講義・GW
11		新生児の体のしくみと看護	教室	講義・GW
12		(褥婦と新生児の看護10問) 事例を通して褥婦の看護を考える①	教室	講義・GW
13		事例を通して褥婦の看護を考える②	教室	講義・GW
14		勤労と子育てについて	教室	講義・GW
試験 まとめ		【評価方法】 課題提出 10点(妊婦・褥婦の アセスメントそれぞれ5点) 課題テスト10点(1/2評価) 試験 筆記試験80点		
参考 文献	系統看護学講座Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学各論(医学書院) (国民衛生の動向) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程(医歯薬出版株式会社) 病気がみえる⑩ 産科(メディックメディア)			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅲ	医師(産婦人科)	I 単位	15 時間	7 回 (7 回+試験まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい以上を理解する。

【学習目標】

- 1) 妊婦期におこりやすい異常がわかる。
- 2) 分娩期に起こりやすい異常がわかる。
- 3) 産褥期に起こりやすい異常がわかる。

回数	日付	学習内容	備考	学習方法
1		母性看護学総論		講義
2		妊娠に関する概説		講義
3		正常妊娠とは その仕組みと機序		講義
4		分娩期の看護		講義
5		異常妊娠について		講義
6		分娩の異常について		講義
7		新生児の異常について		講義
8		試験		講義
試験	【評価方法】			
	試験 筆記試験			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論・母性看護学各論 (医学書院)			

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	母性看護学Ⅳ (母性看護技術)	専任教員(助産師臨床 実務経験有)	I 単位	30時間	15回 (14回+試験まとめ)

【学習のねらい】

妊娠・分娩・産褥期及び新生児期に必要な看護技術を学ぶ。

【学習目標】

- 1) 妊婦に必要な看護技術が習得できる。 2) 産婦に必要な看護技術が習得できる。
3) 褥婦に必要な看護技術が習得できる。 4) 新生児に必要な看護技術が習得できる。

回数	日付	学習内容	備考	方法・場所
1		イントロダクション 母性Ⅳ事始め 新生児の観察と援助 ①抱き方・おむつ交換	健康指導ワークテーマきめ	講義・演習 (教室)
2		新生児の観察と援助② バイタルサイン測定・全身の観察・ 黄疸の観察 ドライテクニックデモンストレーション	LearnOテスト1回目(新生児)	講義・演習 (教室・母性実習室)
3		沐浴デモンストレーション 沐浴技術演習	沐浴DVD	講義・演習 (視聴覚室・母性実習室)
4		妊婦の援助の実際① 妊婦健診の介助・骨盤ケア (前期安産教室・妊娠中の注意点・ 妊娠中の栄養)	LearnOテスト2回目 (妊婦の看護) レオポルド触診法 トコちゃんベルト	教室 演習(母性実習室)
5		妊婦の援助の実際② 妊婦体操 乳房と乳頭の観察、直接 授乳の援助 産後の栄養と母乳について		演習 (視聴覚室・在宅実習室)
6		沐浴技術チェック・健康教育指導 ワークGW	技術チェックは半分ずつ実施	チェック：実習室
7		沐浴技術チェック・健康教育指導 ワークGW	終了後ワークのデモを確認	GW:教室・図書館
8		妊婦(産婦)の援助の実際③ 後期安産教室・分娩・入院生活につ いて 呼吸法と補助動作・ツボ刺激・リラ クゼーション		演習 (視聴覚室・在宅実習室)
9		分娩時の観察と援助(パルトグラ ム・CTGの見方)	LearnOテスト3回目 (分娩の看護)	講義(教室)
10		授乳援助(ラッチオンとポジショ ニング・哺乳瓶での授乳)		演習(教室 母性看護実習室)
11		褥婦の看護展開	LearnOテスト4回目	講義(教室)
12		①経膈分娩の事例から ③帝王切開 での分娩の事例から	(褥婦の看護)	
13		健康教育指導ワーク発表		講義講義(教室)
14				
試験	【評価方法】			
	試験 筆記試験80点(12/14) ※TBL(個人テスト)10点 ワーク評価5点 沐浴技術チェック5点			
参考 文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論・母性看護学各論(医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版(医歯薬出版株式会社) 母性看護技術 第2版(医学書院)			

授業科目	担当講師(実務経験)	時間	回数	単位
小児看護学Ⅰ	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	30時間	15回	1単位

ねらい	子どもの特性について理解し、子どもと家族を取り巻く社会の課題をふまえ、小児看護学			
学習目標	1. 子どもの特性について理解できる。 2. 子どもにとっての家族の意義について学び、子どものいる家族の発達と機能を理解する。 3. 小児看護の目的および、子どもと家族を看護する看護師の役割について理解する。 4. 子どもと家族を看護する看護師の倫理的役割について学ぶ。 5. 日本の母子保健の現状について理解する。 6. 子どもの福祉の理念を知り、児童福祉施策の実践を学ぶ。 7. 現代の社会環境の変化とそれが子どもと家族にどのような影響をもたらしているのか学ぶ。			

回数	学習内容	必要物品	場所他	学習方法
1	子ども観についての検討 ～ディベートを通して～ (子どもについての考えを明確にする)	配付資料	教室	講義 GW
2	子ども観の変遷 (子どもはどのように捉えられているか比較検討し 人生における子ども時代の意義を考える)	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
3	親子関係と子どもの育ち「愛着について」 (昔話・童話・ディズニープリンセスの物語を通して親子関係について考える)	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
4	子どもの面倒をみるのは誰か (ペアレンティングと児童福祉について概略を学ぶ)	配付資料 テキスト	教室	講義 GW

8月映画「千と千尋の神隠し」上映会 124分（3回目の講義を受けるために視聴必須）

5	子どもの特性① (子ども時代はいつ終わるのか? 「子ども」とは何か) ※映画「千と千尋の神隠し」からひもとく「子ども時代」	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
6	子どもの特性と育ち① (子どもの遊びから感覚機能と認知機能の関係を学ぶ)	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
7	子どもの特性と育ち② ～言語獲得～ (子どもは家庭で〇〇を学ぶ)	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
8	子どもの身体的特性① 感覚機能や認知機能と密接につながる運動機能の変化について、他の哺乳動物と比較しながら学ぶ	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
9	子どもの身体的特性②～成人との比較を通して～ 「循環器系・呼吸器系・消化器系」	配付資料 (ワークブック) テキスト	教室	講義 GW
10	子どもの身体的特性③～成人との比較を通して～ 「腎泌尿器系・感覚器系・脳神経系」	配付資料 (ワークブック) テキスト	教室	講義 GW
11	児童福祉・母子保健の実践 ～事例を通して考える～	配付資料 テキスト(電子・目で見る児童福祉2018)	教室	講義 GW
12	児童福祉・母子保健の実践 ～事例を通して考える～	配付資料 テキスト(電子・目で見る児童福祉2018)	教室	講義 GW
13	子どもを取り巻く現代社会の課題 児童虐待について	配付資料 テキスト	教室	講義 GW
14	子どもを取り巻く現代社会の課題 子どもの貧困について	配付資料 テキスト	教室	講義 GW

評価：筆記試験とレポートおよび授業の参加状況を鑑みて評価します。

<参考文献> 参考文献・参考資料は、適宜授業の中で紹介する。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学Ⅱ	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	1	15	7回(試験1回)

学習目標 健康な子どもの成長発達を促進するための基本的な看護を理解する。
 1) 子どもの摂食機能や身辺自立の発達過程を知り、発達をふまえた食事の援助について学ぶ。
 2) 幼児期の子どもの発達を知り、基本的生活習慣の獲得に向けての援助を理解する。
 3) 子どもにおこりやすい事故とその特徴を知り、子どもの安全を守るための看護について理解する。
 4) 学童期・思春期の子どもの健康課題を知り、子ども自ら保健行動を促進する基本的な援助を理解する。

	学習内容	学習ポイント/キーワード	学習方法
1	事例1) 乳児期の子どもへの食事援助 どのような離乳プロセスを進めたらよいか母親に伝えることを想定してグループ学習する。 事例2) 学童期の子どもへの食事援助 事例をふまえ、どのような離乳プロセスを進めたらよいか子どもと母親に伝えることを想定してグループ学習する。	事例1 活用する既習の内容 乳児期の摂食機能の活用・離乳食とは 新規学習事項 子どもにとっての栄養の意義・ 離乳食の進め方、調理の工夫	講義・GW
2	他の発表を聞いて学びを共有する。	事例2 活用する既習の内容 学童期の発達課題 新規学習事項 学童期の栄養の意義・食育 肥満度の評価	講義・GW
3	乳幼児期の事故防止について 乳幼児期各年齢に応じて起こりやすい事故の統計学的な外観をふまえ、防止策についてはグループ学習し、発表会で学びを共有する。	活用する既習の内容 乳幼児期の発達の特徴 新規学習事項 家庭の中で起こりやすい子どもの事故の種類、原因、防止策	講義・GW
4	予防接種・学校保健 行政が進めている子どもへの保健活動を知り、具体的な子どもの年齢に応じた健康課題について講義にて学ぶ。 看護師の果たす役割については各自考えレポート課題とする。	活用する既習の内容 乳幼児期・学童期の発達課題 児童福祉法・母子保健法 新規学習事項 母子保健のための具体的取り組み、予防接種・学校保健の取組	講義・GW
5	事例3) 幼児期の生活習慣の進め方(排	事例1	講義・GW
6	お漏らしを繰り返す、トイレトレーニングを進めることに悩んでいる母親へ援助することを想定してグループ学習する。 事例4) 幼児期の生活習慣の進め方(睡眠) 共働き親の大人時間に合わせて生活リズムを崩していた子ども。発達段階に応じた睡眠時間確保について親に提案することをグループ学習する。 事例5) 思春期の生活習慣の進め方(睡眠) 朝が起きられなくて学校を休みがちになりはじめた後期学童期の子どもを想定して親と子どもに援助することを想定してグループ学習する。 他の発表を聞いて学びを共有する。	活用する既習の内容 幼児期の排泄の発達 新規学習事項 トイレトレーニングの進め方 事例2 活用する既習の内容 幼児期の発達課題 新規学習事項 幼児期の睡眠の特性・覚醒と睡眠の生理 事例3 活用する既習の内容 思春期の発達課題 新規学習事項 思春期の睡眠の特性・覚醒と睡眠の生理	
7	グループ学習の総括を下記の視点で講義にて学習する。 子どもの保健行動の発達 親や家庭の役割 行政の取り組み「健やか親子21」		講義・GW

<評価> 規定の授業時間8分の1出席をしていることを前提に下記の項目で評価する。

- ①毎回の授業後レポート
- ②講義4回目課題レポート
- ③講義終了後の課題レポート

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学Ⅲ	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 医師(小児科)	1単位	30時間	15回

ねらい	子どもの発達の特徴をふまえ、小児各期に生じやすい健康問題を理解
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎内環境より発症する先天異常について理解する。 2. 子どもが罹患する感染症について理解する。 3. 子どもの手術の特徴を知り、手術を要する健康障害を理解する。 4. 心身障害について理解し、必要な看護を理解する。 5. 急性期にある子どもの特徴と看護について理解する。 6. 慢性期にある子どもと家族を知り、慢性疾患について理解する。

回数	講師	学習内容	日付	学習方法
1		先天異常と疾患をもつ新生児①(染色体異常・分娩損傷・代謝異常)		講義
2		子どものアレルギー疾患 (気管支喘息・食物アレルギー)		講義
3		子どもの悪性新生物 (診断と治療概要・白血病・脳腫瘍・網膜芽腫・ウィルムス腫瘍・神経芽腫・骨肉腫)		講義
4		腎・泌尿器疾患 (泌尿生殖器の奇形・ネフローゼ症候群・糸球体腎炎・腎不全・尿路感染症)		講義
5		子どもの循環器疾患(先天性心疾患)		講義
6		子どもの血液疾患(川崎病・血友病・貧血)		講義
7		子どもの消化器疾患 (口蓋裂・食道閉鎖症・幽門狭窄症・鎖肛・胆道閉鎖症・腸重積)		講義
8		子どもの代謝性疾患と内分泌疾患 (先天代謝異常・下垂体疾患・甲状腺疾患先天性副腎過形成症・糖尿病)		講義
9		子どもが罹患する主な感染症① (麻疹・風疹・突発疹・水痘・手足口病・ムンプス・インフルエンザ・百日咳・破傷風・ブドウ球菌感染症・急性胃腸炎・普通感冒)		講義
10		子どもが罹患する主な感染症② (麻疹・風疹・突発疹・水痘・手足口病・ムンプス・インフルエンザ・百日咳・破傷風・ブドウ球菌感染症・急性胃腸炎・普通感冒)		講義
11		子どもの事故・外傷と看護 子どものBLS		講義
12/13/14		あいち障害者フライングディスク大会 会場：愛知県体育館/名古屋市中区丸の内 (地下鉄名城線「市役所」徒歩5分)		演習
15		子どもの事故・外傷と看護 子どものBLS		講義

評価	方法：筆記試験 時期：筆記試験は授業終了後
----	--------------------------

<使用テキスト>
奈良間美保他編：系統看護学講座専門23小児看護学(2)小児臨床看護各論 第11版医学書院2010年

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
小児看護学IV	専任教員 (小児看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間	8回

ねらい：健康問題を持つ子どもと家族の反応や、対処行動について理解し、健康問題を持つ子どもの看護特徴を理解できる。

- 目標：1. 疾病・障害が子どもとその家族に与える影響を理解し、その看護について学ぶ。
 2. さまざまな健康段階にある子どもの特徴と看護について理解する。
 3. さまざまな症状をしめす子どもの特徴と看護について理解する。
 4. さまざまな状況にある子どもの特徴と看護について理解する。
 5. 健康問題を持つ子どもの生活援助技術について理解する。
 6. 健康問題を持つ子どもの診療の補助技術について理解する。

回	学習内容	方法	備考
1	急性期にある子どもの特性と看護展開 その1 ～事例から学ぶ急性期の看護～ ロタウイルス腸炎を罹患した乳児	グループワーク	配布資料とテキスト
2	急性期にある子どもの特性と看護展開 ～事例から学ぶ急性期の看護～ 川崎病のを罹患した幼児 アデノウイルス感染症を罹患した乳児	講義	配布資料
3	急性期にある子どもへの看護展開 (事例) 不慮の事故時の対応 子どもへの心肺蘇生	講義 演習	テキスト 配布資料
4	慢性期にある子どもの特性と看護展開 1. 気管支喘息を罹患している学童期 2. 糖尿病Ⅰ型を罹患している思春期	講義	テキスト 配布資料
5	重症心身障害の概念 1. 定義と発生原因 2. 障害を持つ子どもの権利 3. 重症心身障害の子どもの身体的特徴	講義	配布資料
6	重症心身障害の子どもに対する援助 1. 呼吸 2. 食事 3. 医療的ケアとは	講義	配布資料
7	重症心身障害の子どもに対する援助 1. ポジショニング 2. ユニケーション	講義	配布資料
8	重症心身障害児と家族への支援 1. 前から新生児までの家族支援 2. ICUとGCU 3. 心身障害児施設と療育	講義	配布資料
	疾病・障害を持つ子どもと家族の看護 1. 症状を示す子どもの特徴と看護 2. 終末期にある子どもの特徴と看護 3. 疾病・障害の受容過程と理解の仕方 4. 疾病・障害や入院に伴う影響と対処 5. 小児外来看護の特徴と看護の役割 6. 小児外来での看護の実際	講義	テキスト 配布資料
	バイタルサイン測定 1. 子どもを援助するときの基本的な考え方 2. 子どもにとってのバイタルサイン 3. バイタルサイン測定の実際	講義 演習	テキスト 配布資料
	プレパレーション 1. プレパレーションとは 2. プレパレーションツールの意義と展開方法 3. 看護上の問題「恐怖」を持つ模擬患児への	講義	テキスト 配布資料
	与薬の看護抑制と酸素吸入 1. 輸液療法を行う子どもへの援助 2. 与薬(経口・吸入)を受ける子どもへの援助 3. 採血時の抑制・固定方法 4. 酸素吸入時の援助方法	講義 演習	テキスト 配布資料
	低出生体重児の看護 1. 低出生体重児の特徴と健康問題 2. 低出生体重児の看護の実際	講義	テキスト 配布資料
	プレパレーションの実際 模擬患児へのプレパレーションの展開 (採血を行う患児・バイタルサイン測定・輸液療法を行う患児・酸素療法を行う患児)	発表	テキスト 配布資料

試験：筆記試験 100%

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅰ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有)	1単位	30時間	15回(試験)

I. ねらい

精神看護の対象と目的を理解し、社会に求められる看護の役割を理解する。

II. 目標

1. 精神看護の目的・対象を学ぶ。
2. 精神保健医療と看護の成り立ちから現在までの変遷を理解する。
3. 看護に必要な基礎的理論を学ぶ。
4. 精神看護の役割と展望を理解する。

III. 計画

	日時	内容	方法
1		・精神看護の目的 ・精神看護の対象・場	講義
2		・精神看護に関連する保健統計 ・適応・防衛機制について①	講義 GW
3		・適応・防衛機制について② ・精神医療の変遷①	GW 講義
4		・精神医療の変遷②	GW
5		・精神医療の変遷③ ・精神医療と看護に関連する法律①	発表 講義・GW
6		・精神医療と看護に関連する法律②	発表
7		・看護理論 人間関係論 セルフケア理論	講義
8		・ストレスコーピング理論 ・危機理論	講義
9		・精神看護における患者—看護師関係	講義 DVD視聴
10	/	・精神保健医療チームに関わる職種の役割と協働 ・人権と権利擁護 ・インフォームドコンセント	講義
11	/	・障害者総合支援法に基づくサービス体系とは①	講義 GW
12	/	・障害者総合支援法に基づくサービス体系とは②	発表 講義
13	/	・司法精神医学と看護	講義
14	/	・「目で見える精神看護 Vol3. 病院から地域社会へ」レポート ・まとめ	DVD視聴 講義
15	/	試験	

IV. 評価 筆記テスト100点で評価する

V. 教科書

武井麻子他：精神看護学【1】精神看護の基礎 医学書院
武井麻子他：精神看護学【2】精神看護の展開 医学書院
坂田三允：心を病む人の看護 中央法規

VI. 参考文献

適宜紹介

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅱ	専任教員(精神看護領域臨床実務経験有) 非常勤講師(臨床心理士・産業カウンセラー実務経験有)	1単位	15時間	7回(試験1)

【学習のねらい】

精神の健康の保持増進に影響をおよぼす要因と看護の方法を理解する。

【学習目標】

1. 精神の健康と基本概念が理解できる。
2. パーソナリティの発達とライフサイクルにおける精神の危機が理解できる。
3. 精神の健康保持をサポートするサービスが理解できる。
4. 精神保健と看護の課題を考えることができる。

日時	内容	方法	日付/実施
1	1. 精神の健康とは 2. 人間と心の諸活動[1] 1) 人格と気質 2) 人格の心理検査	講義	
2	1. 人間と心の諸活動[2] 3) 人格の心理検査 2. 家族と健康 1) 家族内コミュニケーションのゆがみ 2) 家族のなかの役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族と感情表出	講義 ※コーピングワークの課題を伝えます	
3	1. 心のしくみと人格の発達に関連する諸理論 1) 精神分析モデル 2) 成長発達モデル 2. 危機介入とは	発表 講義	
4	1. 精神保健の領域 1) 広義の精神保健(家庭、学校、職場) 2) 狭義の精神保健 2. 職場における精神保健 1) 精神保健に影響する労働形態および労働環境の変化 2) 職場における精神保健上の問題 3. 入院生活のストレス、看護師特有のストレス	講義	
5	1. 精神保健サービスと他職種との連携 2. 精神科訪問看護師の役割	講義 DVD ※DVD「精神科訪問看護(30分)」視聴後感想・学び	
6	1. 精神の健康に関する普及啓発活動[1] ・こころのバリアフリー宣言 ・健康日本21 ・健康増進法 ・新健康フロンティア戦略 ・労働者の心の健康の保持増進のための指針	講義 GW	
7	1. 精神の健康に関する普及啓発活動[2]	発表・講義	
8	試験		

【使用テキスト】

武井 麻子他：精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院
外口 玉子他：精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院
国民衛生の動向 2017/2018年度版

【評価】

筆記テスト90点、課題5点、DVD感想文5点で評価する。

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅲ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有) 医師(精神神経科)	1単位	15時間	7回(試験1)

【学習のねらい】

精神を障害された人の看護を行うために必要な疾患・病態像・書状・治療の特徴を学ぶ。

【学習目標】

1. 精神を障害された人の主な症状と状態がわかる。
2. 主な精神疾患と派生する問題がわかる。
3. 主な精神機能の検査がわかる。
4. 主の治療と援助の実際が分かる。

	日時	内容	方法	日付/実施
1		1. 精神医学概論	講義	
2		2. 統合失調症について(病態と主な症状)	講義	
3		3. 統合失調症について(検査や治療)	講義	
4		4. 統合失調症について(治療と派生する問題)	講義	
5		5. 精神の健康と障害について	講義	
6		6. 精神疾患の概念・主な精神疾患	講義	
7		7. 統合失調症を患っている患者の看護	講義	
8		試験		

【使用テキスト】

武井 麻子他：精神看護の基礎 精神看護学[1] 医学書院
 外口 玉子他：精神看護の展開 精神看護学[2] 医学書院
 国民衛生の動向 2017/2018年度版

【評価】

筆記テスト90点、課題5点、DVD感想文5点で評価する。

対象	授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間	回数
	精神看護学Ⅳ	専任教員 (精神看護領域臨床実務経験有)	2単位	30時間中 14時間	15回中 7回 試験1

Ⅰ. 学習目標

- 1) 精神を障がいされた人の看護過程の特徴を理解する。
- 2) 社会復帰に向けた生活技能訓練の実際を理解する。

Ⅱ. 計画

回数/日付	学習内容	学習方法
1	精神看護師の役割	講義
2	精神看護におけるコミュニケーション技法	講義
3	患者－看護師関係とプロセスレコードの活用	講義
4	精神科看護の実際 ①症状別看護 ②日常生活における参与技術	講義
5	精神科看護の実際 ①薬物療法を受ける患者の看護	講義
6	精神科看護の実際 ①精神保健福祉法 ②社会復帰を助ける	講義
7	精神科看護の実際 ①行動制限と看護 ②環境の調整	講義
8	統合失調症とは 当事者研究「水飲みがとまらない」	講義 DVD視聴
9	セルフケア理論 オレム・アンダーウッド理論とは	講義
10	統合失調症患者（慢性期）の看護過程 ①情報の整理・アセスメント	講義 GW
11	②統合アセスメント	講義
12	③看護計画	GW
13	④看護計画に沿った実践（ロールプレー）	GW 発表
14	SST（生活技能訓練）とは テーマをもとにロールプレイング 精神看護学実習に必要なコミュニケーション	GW 発表 講義 GW
15	試験	

Ⅲ. 評価 50点（試験20点、課題提出30点）で評価する。

Ⅳ. 教科書

武井 麻子他：専門Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院

外口 玉子他：専門Ⅱ 精神看護の展開 医学書院

坂田 三允：心を病む人の看護 中央出版

【参考文献】 1) 田中美恵子：学生－患者のストーリーで綴る実習展開. 精神看護学第2版. 医歯薬出版、2015

2) 公益財団法人浅香山病院看護部：初めての精神看護学. メディカ出版、2018

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
成人看護学実習 I	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：生命危機状況（周術期又は過大侵襲による急激な内部環境の変化）にある成人期の対象とその家族に対して、生命危機状況からの回復に向けての看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学 習 目 標			
1. 生命危機状況にある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 生命危機状況にある対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 生命危機状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の術後や回復の経過に影響を及ぼす要因を捉え、早期回復・社会復帰に向けた看護が実践・評価できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。			
1	生命危機状況にある成人期の対象の理解	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (必要な観察項目：術前や発症前の健康状態、生活状況、既往歴、治療経過、術式、麻酔の種類、手術による生体の変化、侵襲の大きさ、身体侵襲下にある病態、生命徴候、創傷の状態、疼痛コントロール状況、治療・処置の内容・方法、術後および受傷後の合併症・対象および家族の心理変化) ②生命危機状態・過大侵襲時の経過と生体反応	
2	生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：術後回復遅延リスク状態 感染リスク状態他、健康上の課題解決に向けた看護計画の立案) ②生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ (術後や受傷後の生命徴候への影響・二次障害や合併症予防・外科的侵襲や過大侵襲からの早期回復・術後や受傷後の疼痛・生命危機状況からもたらされる苦痛・患者が受ける治療処置から引き起こされる生活行動障害・早期の社会復帰・患者や家族の不安や恐怖) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：ムーアの分類、危機理論、成人期の発達課題)	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	生命危機状況にある成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・治療や処置の管理や補助技術 ・疼痛や身体的苦痛緩和ケア ・情緒的支援技術(ボディイメージへの変化や不安恐怖への緩和ケア) ・コミュニケーション技術 ・教育的指導技術 ②生命危機状況にある対象者の健康ニーズに対応する他職種との役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④生命危機状態、過大侵襲時の治療環境 ・生命危機状態・過大侵襲時に必要な治療・処置 酸素療法、輸液療法、ME機器類の管理、ドレーン、各種侵襲ラインの実際	
4	看護師としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生命危機状況にある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
成人看護学実習Ⅱ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：生活行動に障害のある成人期の対象とその家族に対して、生活行動の障害の回復・維持、その人らしい生活を支える看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活行動に障害のある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 機能障害や治療困難な状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の生活行動に影響を及ぼす要因を捉え、生活の自立・再構築、社会復帰または生命力の消耗を最小限にするための看護が実践・評価できる。 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。 		
1	生活行動に障害のある成人期の対象の特性	<ol style="list-style-type: none"> ①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (身体機能障害の部位と程度、機能障害と生活行動の関連、疼痛や苦痛のコントロール状況や自覚症状、治療・処置の内容、生活環境、残存機能とセルフケア能力、対象や家族の障害や死に対する受容状況・心理状況、家族・地域の協力的体制や支援システムなど) ②身体機能障害の部位と程度(関節可動域評価/R・O・M、筋力評価法/M・M・T、日常生活行動および活動評価法/A・D・L) ③疼痛や苦痛のコントロール状況や自覚症状、治療・処置の内容、生活環境、残存機能とセルフケア能力 	
2	生活行動に障害のある成人期の対象の健康ニーズの理解	<ol style="list-style-type: none"> ①看護過程展開技術 (看護診断(例)：身体可動性障害 セルフケア不足 活動耐性低下 身体外傷リスク状態 皮膚統合性障害 安楽障害など、健康上の課題解決に向けた看護計画の立案) ②生活行動障害にある成人期の対象の健康ニーズ (機能回復・維持、日常生活行動の拡大や再獲得、心身の安楽や症状緩和、予測される二次障害・合併症の予防、社会復帰、最小限の生命力の消耗、患者・家族の心理的安定、残存機能の維持、障害受容) ③看護アセスメントにおける思考 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：障害受容、死の受容、成人期の発達課題) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	生活行動に障害のある成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	<ol style="list-style-type: none"> ①健康ニーズに応じた援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション看護技術 ・緩和ケア技術(痛みのマネジメント、ペインコントロール、リラクゼーション技法、緩和的生活援助、代替療法、グリーフケア) ・治療や処置の管理や補助技術 ・教育指導技術、情緒的支援(コーチングスキルやカウンセリングスキル、傾聴、エンパワメント) ②生活行動障害にある対象者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・チームで協力する力 ④生活行動障害にある対象者の治療環境や社会資源 	
4	看護者としての社会人基礎力習得	<ol style="list-style-type: none"> ①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど) 	

評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間
成人看護学実習Ⅲ	専任教員(成人看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：慢性的経過をたどる成人期の対象とその家族に対して、疾病の悪化防止と合併症予防をしながら生活に満足できるようセルフマネジメント（自己管理）能力を高める看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	1. 疾病コントロールを必要とする対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 対象の健康上の課題を判断し、解決に必要な看護を計画できる。 3. 症状増悪、疾病コントロール不良な状況にある対象の治療・処置の特徴や対象の症状・疾病コントロールに影響を及ぼす要因を捉え、自己管理・社会復帰に向けての看護が実践・評価できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。		
1	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の理解	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (症状の変化、病状の経過、合併症の徴候と症状、症状の増悪が生活に及ぼす影響、治療計画、治療・処置内容、生活習慣、日常生活・社会生活の規制、協力体制・支援システムなど) ②疾病の理解と受容状況 ③病状と疾患の自己管理についての認識と取り組み状況	
2	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ	①看護過程展開技術 (看護診断(例)：非効果的健康管理 健康管理促進準備状態 など) 健康上の課題解決に向けた看護計画の立案 ②疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ (治療と生活を統合させる自己管理、予測される二次障害および合併症予防、社会復帰、苦痛の緩和、症状コントロール、患者・家族の心理的安定、健康の再構築に向けて新習慣への適応) ③看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(理論：慢性疾患の特徴、病みの軌跡、自己効力感、アドラゴジー、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス、行動変遷ステージモデル、トランスセオレティカルモデル(理論横断モデル、成人期の発達課題))	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
3	疾病コントロールを必要とする成人期の対象の健康ニーズ充足に向けての援助	①健康ニーズに応じた援助技術 ・セルフマネジメント教育技術(コーチングスキルやカウンセリングスキル、傾聴、エンパワメント) ・緩和ケア技術 ・治療や処置の管理や補助技術 ②疾病コントロールを必要とする対象者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 ③他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 ④疾病コントロールを必要とする対象者の治療環境と社会資源	
4	看護師としての社会人基礎力習得	①リフレクションを用いた自己評価方法 ②生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 ③学習マネジメントの在り方 ④グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 ⑤援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど)	
<p>評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。 単位認定は、基礎看護学実習Ⅰ-②と合わせて算定される。</p>			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
老年看護学実習 I	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(介護老人保健施設勤務看護師) 実習指導者(リハビリテーション病院勤務看護師)	2	90時間 ①介護老人保健施設 60時間 ②リハビリテーション病院 30時間

実習目的：老年期にある対象を総合的に理解し、さまざまな健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	主 題	学 習 内 容	方 法
1. 回復期および慢性期の医療及びケアを受ける高齢者の特徴が理解できる。 2. 回復期および慢性期の医療及びケアを受ける高齢者との関わりや日常生活援助を通し、対象の特徴に応じた看護の方法に理解する。 3. チーム医療およびチームケアにおける看護師の役割を理解できる。 4. 高齢者の家庭復帰に必要な他職種連携の在り方について理解できる。 5. 高齢者のパーソンフードを考慮した関わりについて考えることができる。			
介護老人保健施設	要介護状態にある高齢者の特徴と生活の理解	①介護老人保健施設の概要 (施設の目的・機能・入所要件・サービスの内容・介護保険制度の概要) ②高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ③観察技術・生活行動評価法 生活機能障害の程度	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
	高齢者の生活機能の障害に応じた生活支援の実践	①要介護状態にある老年者の健康ニーズ ②介護老人保健施設での看護過程展開の実際 (生活行動情報のアセスメント・ケアの方向性・長期目標・短期目標・ケア計画の根拠) ③摂食・嚥下障害のある老年者への食事介助 ④胃瘻からの経管栄養 ⑤健康ニーズに応じた生活援助技術(排泄・清潔・体位・更衣など) ⑥診療の補助技術	
	介護老人保健施設における看護師の役割	①他職種との連携(ケアカンファレンスの実際)とチームケアを行う際の看護師の役割 ・QOL(心身の機能低下、その人らしさの維持、自立の維持、合併症予防) 等	
	高齢者の特性に応じた対応のあり方	①高齢者を尊重した対応(礼節を守る、言葉の選択、生活史への理解や傾聴) ②パーソンフードを考慮した対応	
リハビリテーション病院	家庭復帰および家庭生活の維持に向け療養している高齢者の特性	①リハビリテーション病院の特徴 ②入院している老年者の特徴と健康ニーズ (入院の条件・退院率・退院後の生活の拠点・回復期に抱える課題の特徴) ③通所リハビリテーションを受ける老年者の特徴と健康ニーズ ④観察技術・生活行動評価法 生活行動障害評価、環境	
	高齢者の生活の再構築に向けた関わり方の実際	①日常生活訓練の実際(ADL訓練・IADL訓練) ②日常生活の支援の方法・関わり方(自立の支援、安全管理・家族指導) ③多職種連携の方法 ④居宅支援サービス計画書と通所リハビリテーションとの関連	
	老年者の家庭復帰に必要な多職種との連携のあり方	①チーム医療における看護師の役割 ②ケアカンファレンスの意義 (参加者の職種・役割 開催時期による検討内容 治療計画に携わるメンバー)	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
老年看護学実習Ⅱ	専任教員(老年看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間(7.5H×12日間)

実習目的：高齢者の健康課題を系統的に捉え、健康の回復を支援するための基礎的看護実践能力を習得する。

学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害のある高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 健康障害のある高齢者の健康課題を特定し、解決に必要な看護を計画できる。 治療や加齢現象が心身に及ぼす影響を理解し、対象の状況に応じた援助が実施・評価できる。 高齢者との関わりを通して自己の老年看護観を表現できる。 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。 		
1	健康障害のある高齢者の理解	<ol style="list-style-type: none"> インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (病態・治療の理解、合併症・二次障害の徴候・症状の予測、生活機能の程度、退院後の生活における課題、多剤投与の影響など) 老年者のQOLを低下させる影響因子評価 リスクマネジメント(身体機能 認知能力、視聴覚能力、家族機能など評価) 老いや疾患・障害に対する患者・家族の反応 退院調整の有無 サポート体制の状況 老年看護観の記述 	
2	健康障害のある高齢者の健康ニーズ	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程展開技術 (看護診断(例)：転倒・転落リスク状態 嚥下障害 機能性尿失禁 など) 健康上の課題解決に向けた看護計画の立案 健康障害のある老年者の健康ニーズ (日常生活動作の残存機能、皮膚・粘膜の脆弱化、摂食・咀嚼・嚥下障害、意思伝達の障害、老年者に快適な生活ペース・雇用症候群・合併症・二次障害の予防、治療に伴うリスク回避) 看護アセスメントにおける思考 ・臨床推論、状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする論理的・科学的思考(参照する考え) 	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーションを受ける。 事前学習をする。 受け持ち患者を決定する。 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 行動計画に沿って患者の援助に参加する 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 問題解決に必要な看護計画を立てる。 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 必要時プロセスレコードを作成する。 実践の振り返りを行う。
3	健康障害のある高齢者の健康ニーズ充足に向けての援助	<ol style="list-style-type: none"> 健康ニーズに応じた援助技術 ・加齢による変化を支える生活支援(食事介助・スキンケア・失禁ケア・褥瘡ケア・睡眠へのケアなど) ・緩和ケア技術 ・治療や処置の管理や補助技術 健康障害のある老年者の健康ニーズに対応する他職種の役割と機能 他職種との連携の意義と在り方 ・チームで協力する力 退院後の課題に向けての援助 生活の拠点や役割に応じた援助の方法、継続看護の方法 退院支援の方法(介護支援連携・退院支援計画など) 	
4	看護者としての社会人基礎力習得	<ol style="list-style-type: none"> リフレクションを用いた自己評価方法 生活行動に障害のある対象者への看護の意味と価値 学習マネジメントの在り方 グループダイナミクスとチームでの共同の在り方 援助につなげる対人関係スキル (礼節を守る・感じ取る・思いやる・イメージするなど) 	

評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
母性看護学実習	専任教員(助産師臨床実務経験有) 実習指導者(臨床助産師)	2	90時間(8H×病院11日間+7.5h学内)

実習目的：看護を必要とする母性の対象を理解し、看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学習目標	単 元	内 容	功 能
1. 褥婦及び新生児の生理的変化、心理・社会的特徴から健康課題を判断し、実践・評価できる。 2. マタニティサイクルにいる対象の特徴を踏まえ、よりよい健康を目指した看護が理解できる。 3. 生涯を通じた女性の健康を促進するための看護の役割が考察できる。 4. 看護実践を通して、社会人基礎力を身につけ、自己研鑽できる能力を養う。			
1	褥婦及び新生児の特徴理解と健康課題への援助	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (褥婦：分娩状況、子宮復古状況、感染兆候、乳房状態、精神状態 新生児：VS測定、経皮黄疸計、体重、全身の状態) ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考(参照すべき理論や知識：褥婦の退行性変化と進行性変化、母親役割獲得の特徴と推移、マタニティブルーズ、新生児の胎外生活移行状況) ③褥婦および新生児の健康ニーズと援助 ・健康ニーズ 褥婦の分娩後の退行性変化と進行性変化の促進・母子相互作用の促進 新生児の胎外生活適応促進 ・褥婦の身体変化に応じた生活技術、教育的指導技術、コミュニケーション技術	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師(助産師)と打ち合わせ、見学を進める。 5. 看護師(助産師)とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する。 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する。 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 対象への支援内容を見学する。 11. 実践の振り返りを行う。
2	妊婦の生理的変化・心理社会的特徴の理解と看護の実際	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 ②助産外来に通院する妊婦へのアセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③妊婦の健康ニーズと援助(見学) ・母親教室での集団支援	
3	産婦の生理的変化・心理社会的特徴の理解と看護の実際	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 ●産婦：VS測定・陣痛測定・破水の有無、血性分泌物の変化、産痛部位・精神状態・CTG・生活ニーズ充足状況など ●新生児：アプガースコア採点、臍帯処置、身体測定ほか、母子対面の様子など ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③産婦の健康ニーズと援助 ・陣痛と産痛緩和の援助、分娩進行の促進、帝王切開術後のケア	
	生涯を通じた女性の健康を促進するための看護	①インタビューおよび身体診査技術、観察技術 (産婦人科外来を受診する女性生殖器疾患) ②アセスメントにおける思考 ・臨床推論や状況判断 ・現象と理論を結び付け意味づけする思考 ③女性の健康ニーズについての考察	
4	看護師としての社会人基礎力習得	・リフレクションを用いた自己評価方法 ・生命危機状況にある対象者への看護の意味と価値 ・学習マネジメントの在り方 ・グループダイナミクスとチームでの共同の在り方	
評価：実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
小児看護学実習 I	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	45時間(7.5H×4日間) (8H×1日間 +7H)

実習目的：子どもとその家族を思いやり、子どもが健やかな成長発達を遂げることができるよう、健康のプロセスを支援する看護のあり方がわかる。

学習目標	1) 子どもを身体的・精神的・社会的に統合された生活を営む存在として理解し、その特性を記述できる。 2) 成長発達の特性を知り、健やかな発達を支援する具体的な方法を提案できる。 3) 子どもを尊重し、子どもの特性に応じた対応ができる。		
1	障害のある子どもの生活支援	1) 子どもの障害の種類と特性 2) 障害のある子どもの形態的成長・精神運動機能の発達の特性 3) 障害のある子どもの友人・仲間との関わり方と反応 4) 障害のある子どもとの関わりを通して得る子ども観	1) オリエンテーションを受ける 2) 特別支援学校課外イベント(障害者フライングディスク大会)に参加し、大会参加する障害児の支援を実施する。
2	健康な子ども(乳幼児)の生活支援	1) 健康な子どもの形態的成長・精神運動機能の発達 2) 子どもを取りまく物理的環境(保育園の構造や施設設備) 3) 健康な子どもと遊び ①発達段階にあった遊びの種類 ②遊びと成長発達の間連 乳幼児の使っている遊具や玩具、興味関心の度合、集中度、参加度、運動量、体の動き等 ③健康な子どもの遊ばせ方 4) 健康な子どもの友人・仲間、大人との関わり方と反応 5) 健康な子どもの食事行動と食事習慣 ①食事の環境 ②食事習慣としつけ ③食事介助 ④食事の観察 6) 健康な子どもの排泄行動と排泄習慣 7) 健康な発達を促すことを考えることで得る育児観	1) オリエンテーションを受ける。 2) 保育士の指示に従い、ともに保育活動に参加する。 3) ワークブックにもとづき、実習で得た学びをまとめる。
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間
小児看護学実習Ⅱ	専任教員(小児看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	1	45時間(7.5H×6日間)

実習目的：子どもとその家族を思いやり、子どもが健やかな成長発達を遂げることができるよう、健康のプロセスを支援する看護のあり方がわかる。

学習目標	
1) 子どもを尊重し、子どもの特性に応じた対応について学ぶ。 2) 子どもを身体的・精神的・社会的に統合された生活を営む存在として理解する。 3) 子どもの健康と生活を、環境との関わりと関連付けて考える。 4) 病気や障害を持った子どもの生活上の課題を解決する看護について学ぶ。 5) 子どもをとりまく環境・社会を知り、その中で看護が担うべき役割を考える。 6) 社会人基礎力を身につけ自己研鑽できる能力を養う。	
1	障害のある子どもの生活支援 1) 障害のある子どもの発達の状況 2) 障害のある子どもを取りまく物理的環境（教室やトイレ、玄関などの構造や施設、椅子や体位補助具などの設備） 3) 発達促進のための接し方と遊び ※発達段階や生活年齢・障害のレベルにあった遊びの種類・方法 ※遊びにおけるポジショニング 4) 子どもの仲間、大人との関わり方と反応 コミュニケーションの特徴・表出方法の特徴 5) 子どもの摂食機能に応じた援助方法 (環境・食事時のポジショニング・摂食動作の援助など) 6) 子どもの排泄機能に応じた援助方法 (排泄の環境・排泄時のポジショニング・排泄ケア) 7) 睡眠（睡眠環境の整え方・就眠時のポジショニングなど） 8) 清潔（シャワー浴や部分清拭など整容動作の援助） 9) 活動（移動の援助、車椅子のドライビングや車椅子からの乗降・送迎車の乗降の介助、活動内容に応じた姿勢、体位の保持・安楽性の保持） 10) 医療的ケアの実際 経管栄養・胃瘻・気管切開・酸素療法・吸引・輸液療法・導尿
2	健康障害のある子どもの治療と援助 1) 病気の子どもの身体診査の方法 2) 子どもや家族の反応・訴え 3) 子どもの対人関係の取り方の特徴 4) 検査・処置 5) 子どもの安全・安楽への援助
1) オリエンテーション 2) 指導者の指示に従って参加見学する。 3) ミーティングに参加する。 4) 自己のビジョンにのっとり学習をすすめる学習の成果をポートフォリオとして綴っていく。 5) 凝縮ポートフォリオを作成して学びをまとめる。	
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。	

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
精神看護学実習	専任教員(精神看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	実習前オリエンテーション3時間 病棟実習・施設見学87時間 (7時間15分×12日間)

実習目的：生命危機状況（周術期又は過大侵襲による急激な内部環境の変化）にある成人期の対象とその家族に対して、生命危機状況からの回復に向けての看護を実践できる基礎的能力を習得する。

学 習 目 標			
1. 精神を障がいされている人とその家族を理解できる。 2. 精神の障がい生活におよぼす健康上の課題をアセスメントし、必要な生活援助が実施できる。 3. 精神を障がいされている人と看護者との治療的関係形成の仕方を習得する。 4. 精神を障がいされている人を取り巻く治療環境の特殊性を理解できる。 5. 精神を障がいされている人の社会復帰の過程およびサポートする人々の役割を理解できる。			
1	精神を障がいされている人とその家族の理解	1. 精神を障がいされている人の身体的・精神的・社会的特徴 1) 身体症状、精神症状、 2) 生育歴、生活歴、家族歴、発症年齢 3) 既往歴、治療歴、現在の治療内容 4) 治療が身体および精神に及ぼす影響 5) 精神の障がいによる生活上の困難 2. 精神を障がいされている人を取り巻く家族の特徴	1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. 受け持ち患者を決定する。 4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める 5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。 6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する 7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する 8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。 9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。 10. 必要時プロセスレコードを作成する。 11. 実践の振り返りを行う。
2	精神の障がい生活におよぼす健康上の課題理解と援助	1. 健康上の課題の特定 2. 看護計画立案 3. 日常生活援助の実施・評価 1) セルフケア能力の維持・向上へ向けた介入 2) 発達段階を考慮した介入 3) 自律と自己決定を尊重した介入	
3	精神を障がいされている人と看護者との治療的関係形成	1. 精神を障がいされている人との対人関係の促進 1) 患者—看護者の治療的コミュニケーション 2) 患者—看護学生とのコミュニケーションの分析 3) 対人関係促進への援助 4) 他者との関わりを通しての自己洞察	
4	精神を障がいされている人を取り巻く治療環境の特殊性	1. 精神科病院の特徴と安全管理 1) 病院の構造・設備 2) 鍵管理・患者の権利擁護 2. 隔離室入室の対象となる患者と看護	
5	精神を障がいされている人の社会復帰の過程およびサポート	1. 社会復帰への支援システム 1) 社会復帰施設の環境・入所している対象 2) 社会復帰施設で働く人々と看護者の役割 3) 障がい者が地域で生活するための必要な要素 4) 障がい者が働くことを支援するための必要な要素 2. 患者の家族関係とサポート	
評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。			

在宅看護論 I 講義計画

1. 単位	: 1単位 30時間 (15回)
2. 担当講師(実務経験)	: 専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 学習のねらい	: 在宅看護の対象および場を理解し、社会に求められる在宅看護の役割を理解する。
4. 学習目標	: 1) 在宅看護の概念を理解する。 2) 在宅看護の対象について理解できる。 3) 在宅看護の方法について理解できる。 4) 勤労者医療における地域との連携を知る。

5. 講義計画

回数	月日	主題	内容	方法
1		在宅看護の目的と特徴	私の地域自慢!! ・地域の名所、有名人、おいしい食べ物、有名な出来事 ・住民の地域力として誇れるものは何だろう? 今、地域力を上げる取り組みとしては何が行われているだろうか。	講義 GW 冬季休暇課題①
2		今、自分の地域で行われている在宅の対策を探る。	在宅医療が推進されているわけ。 Keyword: 人口動態・人口構造・世帯構造の推移 税金と医療費の推移 就労人口と就労者の構成の変化 (人口・性別)	「自分の地域を知ろう!!!」 詳細別紙参照
3				
4		「生活者の目線に立つ」支援のために必要なこと ー生活すること・生活する人の理解ー	「生活者の目線に立つ」とはどういうことか。 生活って何? 何からできてるの? “その人らしさ”とは何だろう。 “その人らしさ”を保障するために! Keyword: 在宅生活のその人らしさに関わる制度や法律	講義 GW
5				
6		家族の特性	療養者にとって、家族は味方か敵か? 強みと弱み。	講義
7		療養者と関わる家族の特性	Keyword : 家族機能	GW
8		在宅療養のソーシャルサポートシステム	国や自治体は在宅療養をサポートしてくれる? Keyword : 医療保険と介護保険、地域包括ケアシステム	
9		在宅療養のソーシャルサポートシステム	地域へ戻る人へのサポートはあるのか。 Keyword : 退院調整・退院支援	
10			あなたは信頼を得ることができますか?	
11		訪問看護のマナ	keyword 挨拶、服装、時間、振る舞い、言葉使い、関わりの姿勢	
12			労働生活って何だろう? 労働者の生活を見る視点を理解しよう。	
13			治療しながら働くことってどれくらい可能なのか。	
14			keyword : 勤労者看護 労働生活 両立支援	
15			試験	

6. 評価方法 : 筆記試験および冬季休暇課題及び講義中の提出物の合計にて評価する。

合計の評価点が6割以上で認定。

7. テキスト : 在宅看護論, 医学書院
国民衛生の動向2018/2019, 厚生統計協会
その他、随時紹介する。

1. 概要：在宅看護論Ⅱ 1単位（15時間） 担当講師(実務経験)：専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)				
2. 学習のねらい：生活者の目線に立った支援を実践するための看護の視点について考える。				
3. 学習目標 1) 生活過程をアセスメントする視点が説明できる。 2) 紙上の事例を用いて在宅における看護過程展開の演習を通して、各段に必要な判断を知る。 3) 在宅療養者とその家族にとってのQOLについて考える。 4) 在宅における療養生活の自立のために看護師ができることを考える。				
4. 講義計画： 講義はグループワークの形式ですすめていきます。 毎回、自己学習が出ますので、グループメンバーに迷惑をかけないように準備しましょう。				
回数	主題	内容	準備と復習（課題）	学習方法
第1回	在宅において生活を支援する視点とは	テーマ：生活過程とは何か。 ・対象の生活を知るために必要な情報 ・生活を構成している要素および生活過程とは何かを考 ・生活過程を支援するために必要となる情報は何か。 ・病院と在宅のデータベースを比較する。 何が違うのか、なぜ違うのかを考える。	課題1. 「生活者の視点でディスカッションとテキストP112-131	講義GW
第2回	看護の成果は何ではかるのか	テーマ：看護は何を自指すのか。 ・看護師の役割とは何か。 ・対象のニーズはどのように確認するのか。 ・自立とはどのような状態を言うのか。 ・自立を判断するにはどうするのか。 ・事例を読み解くために必要な知識は何か	事例配布 課題2. 事例についての学 課題3. 事例のプロフィー ※	
第3回	看護の実践に必要なこと	テーマ：看護師は何をアセスメントしてどこに介入するのか。 対象に期待する自立に対し、「できること」「できないこと」と、介入の方向性を決める 要素について考え ・事例に対し、できること・できないこと判断する。	課題4. 事例のデータベースを整理する。	
第4回	看護計画の立案	テーマ：誰が何を支援するのか ・看護師は資源をどのようにマネジメントすればい ・看護師が請け負う責任は何か。 安全な支援を実施するために必要なことは何か。 ・エコマップを作成する。	課題5. 事例のEコマップをも ※次回の講義に持参す	
第5回	在宅で看護は何を評価するのか	テーマ：1回の訪問で看護師が評価すること ・「おはよう」の挨拶でわかることは何か。 ・非言語的コミュニケーションが伝えるもの ・生活上の課題を明らかにする。	課題6. 課題4・5を統合し、事例における生活上の課題を判断する。	
第6回	事例から考えた看護計画	テーマ：看護が目指すものを実現する行動とは ・看護計画とその根拠をシェアする。 ・グループ毎の生活上の課題の捉え方の違いから、看護計画を踏まえ初回訪問の計画を考えてみる。考 ※考え方だけで計画書は作成しない。	課題7. 話し合いをもとに、事例に対する初回訪問の計画を立案する。	
第7回	筆記試験	課題1～課題7を持参する。 「課題でまとめた内容を根拠に、療養者の目線に立った看護実践とは」について自分の意見を試験時間内に記載する。 1～7の課題と当日の記述を合わせて提出し、評価を受ける。		
第8回	在宅訪問活動の実際	1. 訪問看護における看護記録と評価の実際 2. 在宅における終末期ケアの実際	講義を受けて学べたこと（レポート）	

5. 評価

- ・筆記試験（90点）
 - ・講義の振り返り用紙を提出。
 - ・課題8（10点）
- 合計で100点満点中6割以上の得点で認定。

在宅看護論Ⅲ 講義計画

1. 単位： 1単位
2. 担当講師(実務経験)：専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 対象学生：
4. 学習のねらい：訪問看護ステーションの活動の実際を学び、在宅看護への理解と興味を深める。
5. 学習目標
 - 1) 地域で療養する人と家族を支える訪問看護制度と訪問看護活動について理解する。
 - 2) 地域で療養する人と家族を支援するための職種間連携とその中での看護師の役割について考える。
 - 3) 地域における「人生の最終段階における医療」と看護活動について理解する。

6. 講義計画

回数	月日	主題	内容	備考	学習方法
1		訪問看護サービスの意義	訪問看護ステーションの必要性 (ディスカッション)	課題1. レポート「私の在宅療養計画書」詳細は別紙。 復習課題	講義 GW
2		地域包括ケアシステムとは	療養者の生活を地域で支援するとは (ディスカッション)	事前課題 ・国民衛生の動向 ②地域包括ケアについて	
3		訪問看護ステーションを利用するには	あなたの街で訪問看護サービスを利用する (ディスカッション)	事前課題 医療保険と介護保険による訪問看護サービスの利用	
4		在宅における多職種連携	テーマ：チームにおいて看護師は何 (ディスカッション)	事前課題 在宅医療に関連する法律と制度	
5		人生の最終段階における医療①	在宅死とは何か (ディスカッション)	事前課題	
6		—その人らしいエピソードのために—	テーマ：亡くなった人と見送った家族のためにできる事は何か (ディスカッション)	課題2. レポート(別紙)	
7		人生の最終段階にある人に対する退院調整と生活支援	1. 終末期にある患者の退院支援の実際 2. 在宅における緩和ケアの実際 退院支援から在宅療養支援へ 就労継続に向けた在宅療養支援	事前学習 課題2についての意見交換を終えて、「在宅終末期医療について今考えること」 レポート	

7. 予習・復習課題

毎時間、ラーノで予習・復習のための基礎知識や講義内容に関する練習問題を配信します。
問題は国家試験方式で配信します。
それぞれ受験期間は、前回講義時～次回講義前日までです。
満点になるまで繰り返しチャレンジしましょう。

8. 評価について

課題1～3、および筆記試験の得点の合計で60点以上により合格とし、単位を認定する。
評価基準：提出物の内容、提出状況、予習・復習問題の取り組み状況、などにより評価する。
各課題は、試験と同等の取り扱いとなる。勝手な提出の遅延は認められない。
したがって、未提出・提出遅延の場合、その課題についての評価は0点となる。

9. テキスト

- ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院
- ・国民衛生の動向 2018/2019
- ・在宅看護論Ⅰ 講義資料

在宅看護論Ⅳ 講義計画

1. 単位 : 1単位 30時間 (15回、試験)
2. 担当講師(実務経験) : 専任教員(在宅看護領域臨床実務経験有)・実習指導者(臨床看護師)
3. 学習のねらい : 療養者と家族の人生の質を高めるために、在宅の場に応じた基礎的看護技術について学ぶ
4. 学習目標 : 1) 在宅において環境を整える意味について理解する。
2) 在宅で医療処置をうけながら生活する療養者への看護支援について理解する。
3) 勤労者看護の実践として特徴的な看護の視点を理解する。

5. 講義計画

回 月日	主題	内容	準備と復習(課題)	学習 方法
第1回 第2回	在宅における自立した生活に向けてのリハビリテーション	1. 生活習慣とリハビリテーション 2. リハビリテーション援助技術(寝返り・起き上がり・椅子からの立ち上がり・床からの立ち上がり・歩行介助)	演習できる服装で! クリップボード	講義 演習
第3回	在宅看護技術の特徴とリスクマネジメント	1. 在宅における看護技術の特徴は何か。 2. 在宅でのリスクは何か。 ①実習の振り返り ②在宅における事故事例 ③リスク回避方法	課題1. 在宅におけるリスクマネジメントについての自分の考えをまとめる。	講義 演習
第4回	在宅で行う日常生活援助	胃瘻がある在宅療養者の入浴介助の方法 工夫と手順	<事前課題> ・入浴が身体に及ぼす影響を調べる。(循環動態への影響) ・胃瘻とは	講義 演習
第5回	在宅で行う日常生活援助	入浴介助の方法に関する検討	入浴介助についての手順書を準備する。	講義 GW
第6回 第7回	住環境と福祉用具	名古屋市「なごや福祉用具プラザ」施設見学	課題2(※詳細別紙) 福祉用具プラザレポート	講義
第8回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅中心静脈栄養法をうけるAさんへの看護支援		講義
第9回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅酸素療法を受けるBさんへの支援看護		講義 GW
第10回	在宅看護における看護師の役割①	事例学習 在宅人工呼吸療法を受けるCさんへの支援看護		講義 GW
第11回	在宅看護における看護師の役割②	事例学習 マネジメント技術(機器の管理・身体の管理)		講義 GW
第12回	在宅看護における看護師の役割③	事例学習 活用できる社会資源。		講義 GW
第13回	在宅看護における看護師の役割④	事例学習 状態悪化時の対策		講義 GW
第14回	勤労者への支援を考える。	事例をもとに、勤労者に必要な支援を考える。		講義 GW
第15回	試験			

科 目：	看護管理
担当講師(実務経験)：	看護師(中部労災病院看護部長)
学習のねらい：	看護研究の基礎を学び、看護専門職に求められる役割と責任を学ぶ。
時 間：	30時間 1単位

単元看護研究

回数	主題	内容	学習方法
1	看護研究の意義	1.看護研究の意義 2.看護専門職と研究 3.看護研究における倫理 4.看護研究に関連する用語	講義
2・3	看護研究の種類と特徴	研究課題に応じた研究方法とデータ収集法を学び、研究を看護に応用する方法がわかる。(その1) 1.研究課題のタイプ 1)因子分析探索研究 2)関係探索研究 3)関連検証研究 4)因果仮説検証研究 2.データ収集法 1)観察法 2)質問紙法 3)面接法 4)実験的方法	講義
4	研究課題とデータ収集方法	研究課題に応じた研究方法とデータ収集法を学び、研究を看護に応用する方法がわかる。(その2) 1.事例研究 2.文献検索の必要性 3.研究過程と文献の方法 研究成果を活用するための評価の仕方を理解する。 (クリティークの目的と方法) 事例研究(ケーススタディ)の取り組みの方法について 夏季休暇の課題	講義
5・6	看護研究の実際	ケーススタディ発表会	演習
7・8	看護研究の実際	ケーススタディ発表会	演習

単元 看護管理

回数	主題	内容	
1・2	看護管理 使命と組織管理	労災病院使命「勤労者医療推進」への取り組み	講義
3・4	チームの作り方	看護師のチームワークとコミュニケーション 業務遂行のためのマネジメント	講義
5・6	看護管理の実際	看護職マネジメントの実際	講義
7	国際看護	看護師による海外の活躍 日本にいる在留外国人への看護	講義
1. 看護研究：筆記試験 30%			
クリティークレポート 10%			
ケーススタディ 10%			
2. 看護管理：筆記試験 50%			

【講義科目】 医療安全
【ねらい】 医療安全対策の基本的な考え方と実際を理解し医療従事者として果たすべき責任について学ぶ。
【目標】 1) 医療安全の基本的考え方がわかる。 2) 医療安全への具体的取り組みがわかる。 3) ヒューマンエラー対策が理解できる。 4) 看護業務における医療事故の実際を理解できる。 5) 危険を予測し対策を考えることができる。 6) 事例分析方法がわかる。 7) 医療安全における感染管理対策がわかる。
【担当講師・時間】 看護師(中部労災病院医療安全管理者) 15時間 試験(1回)
【対象】 名

【講義日時・内容】			
回	学習方法	内容	備考
1	講義	医療安全ってなんだろう ①医療安全の基本的考え方 ②医療安全への具体的取り組み	テキスト 医療安全と看護の理念 医療安全への取り組みと医療の質の評価 看護学生の実習と安全
2	講義	人はいつでも間違える ヒューマンエラーについて	テキスト 事故発生のメカニズムとリカバリー 患者・家族との協同と安全文化の醸成
3	講義	そのひとつが・・・ コミュニケーションエラーと ノンテクニカルスキル リスク感性を高めよう①	テキスト 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
4	講義	リスク感性を高めよう②	テキスト 看護における医療事故と安全対策
5	講義	リスク感性を高めよう③	テキスト 看護における医療事故と安全対策
6	講義	アクシデント発生！その時あなたは・・・!?	テキスト 事故発生のメカニズムとリカバリー 医療事故後の対応
7	講義	感染管理	
8		試験	筆記試験 100点 (テストには感染の内容も含む)

【使用テキスト】

ナーシング・グラフィカ 医療安全 看護の統合と実践②
その他必要に応じて講義で配布します。

授業科目	担当講師(実務経験)	単位	時間
【看護の統合と実践】 災害看護	看護師(救急看護認定看護師) 専任教員(災害看護実務経験有)	1単位	20時間 (9回 講義・試験) 6時間 (3回 講義) 4時間 (2回 演習)

ねらい：災害看護に必要な基礎的知識と技術を学び、災害時における看護師の役割を理解する。

学習目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する
2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えや地域防災を理解する
3. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する
4. 災害時の看護師の役割と災害サイクルにおける看護支援活動を理解する
5. 災害時に必要な看護技術を体験的に理解する

回数	日時	主題	学習内容	方法	担当
1		災害および災害看護の基礎知識	災害・災害看護とは 災害の種類・特徴 災害サイクルと災害医療・看護の歴史	講義	
2		災害発生時における社会の対応やしきみ 個人の備え	災害医療に関する国の政策と法規 ※課題：災害時非常袋の作成・報告について	講義GW	
3		災害サイクル別の看護支援活動① 急性期・亜急性期	災害が人々の健康と生活に与える影響	講義 GW	
4			病院における災害時の医療と看護活動	講義 GW	
5			救護所における看護支援活動 被災者特性に応じた看護支援活動	講義 GW	
6			避難所における看護支援活動 被災者特性に応じた看護支援活動	講義 GW	
7		国際看護学①②	別紙参照		
8					
9		災害サイクル別の看護支援活動② 慢性期・復興期	仮設住宅における看護支援活動 被災者特性に応じた看護支援活動	講義 GW	
10			災害と心のケア (被災者・救援者)	講義 GW	
11		災害時に必要な看護技術①	考えよう！ 院内での患者誘導・患者搬送	GW	
12		国際看護学③	別紙参照	講義	
13			実践してみよう！ トリアージ・搬送・応急処置 ※服装：トレーニングウェア	演習	
14		災害時に必要な看護技術②			
15			試験		

評価方法	筆記試験 90点 課題10点
使用テキスト	ナースングラフィカ 看護の統合と実践 災害看護 MC/デイヤ出版
参考文献	・黒田裕子監修：新版 災害看護 人間の生命と生活を守る MC/デイヤ出版 ・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 医学書院 その他、資料など配付します

看護技術の統合

1. 単位：1単位（30時間）・担当講師(実務経験)：専任教員(臨床実務経験有)

2. 科目のねらいと目標

リアリティある事例や臨床場面で事故に繋がりがやすい場面を通して、患者の安全を守り、看護者としての判断や技術の統合ができるための実践について学ぶ。

目標1) 入社1年目の臨床現場を想定し、日勤帯のメンバー役割における看護行動計画立案方法を理解する。

目標2) 臨地で遭遇する問題状況を捉え、看護実践に必要な判断と行動を学ぶ。

目標3) 既習の知識・技術を統合し、対象の個別性を踏まえた看護実践方法について学ぶ。

3. 講義計画

回数	日時	主題	目標	内容	方法
1		「看護技術の統合」の意義	科目全体の計画と進め方が理解できる	1. 科目と総合実習との関連 2. 全体像および学習内容・方法 3. 事例紹介 (A氏・B氏)	講義
2		複数患者受持ち時の 行動計画の立案	受持ち患者の全体像を把握し、受持ち時の状態を理解できる	1. 日勤帯におけるメンバーの役割を考える 2. 事例の関連図作成を通して、受持ち時の看護上の問題を予測し、看護計画を立案する (1つ)	個人ワーク
3				事例 (濱田氏 須田氏)	個人ワーク・GW
9週間の課題					
①事例患者 (A氏・B氏) の関連図作成					
②事例患者 (A氏・B氏) の受持ち時に考えられる看護上の問題 (看護診断) の判断					
③事例患者 (A氏・B氏) の受持ち時の看護計画の立案					
④A氏・B氏受持ち時の1日の行動計画 (総合実習：実習計画・実践記録) の記述 課題①～④提出					
4・5		臨地で遭遇する 問題状況と看護	事例を通して、問題状況における看護師の思考プロセスと行動について理解できる	1. 異常徴候の見られる患者の看護を考える 事例 (福田氏)	GW
6・7		Part1			発表
8・9		複数患者受持ち時の 行動計画の立案	行動計画の発表・実践を通して複数患者受持ち時の計画立案方法が理解できる	3. 立案した複数患者受持ち時の1日の看護行動スケジュールの発表 4. スケジュールに基づいた実践と全体討議	発表
10・11		既習の知識・技術を統合した臨床実践能力評価 (OSCE)	臨床看護実践能力評価 (OSCE) により設定された看護技術 (到達度 I・II) の現状を知る	1. 指定された課題について一人ずつ看護実践し、他者評価を受ける。 事例 (天海氏)	技術試験
12・13		臨地で遭遇する 問題状況と看護 Part2	事例を通して、問題状況における看護師の思考プロセスと行動について理解できる	1. 輸液管理時の緊急時対応を考える	GW 講義
14		臨床看護実践能力 (OSCE) の振り返り	OSCE結果を振り返り、自己の課題を明確にできる	1. 記録された看護実践場面 (OSCE) の自己評価 2. 臨床看護実践に必要な知識・技術・態度に対する自己の課題の明確化	DVD視聴
15		試験			

4. 評価 課題①～④ (計30点) OSCE 10点 筆記試験 60点

5. 使用テキスト 固定したものではありません。

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
在宅看護論実習	専任教員 (在宅看護領域臨床実務経験有)	2	90時間 (7.5H×12日間)

実習目的：地域で療養を継続する人と家族の社会生活の維持に向けた看護実践から、「生活者」の視点に立った看護支援の在り方を学ぶ。

学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自宅で療養する人と家族と関わり、生活の在り方と健康の関連について考える。 2) 通院する患者の治療の継続に影響する生活因子について考える。 3) 対象の生活環境に応じた看護(専門職、家族、その他インフォーマルな資源による)の実際から療養者や家族が持つヘルスケア昨日の強みと課題への看護師の判断と行動を考える。 4) 患者の地域生活の継続に向けた外来で看護師が行う判断の行動の実際を知る。 5) 地域での支えあい、病院を含めたケアサポートシステムとして保健・医療・福祉の連携の実際を知る。 6) 地域医療における看護活動の特徴と機能について体験からまとめる。 7) 病院における入退院視線の自殺から、通院する勤労者の就労と治療の両立のための看護師の判断と行動について考える。 8) 実習における学習のマネジメントができる。 	
訪問看護ステーション	1. 生活者としての在宅療養者とその家族の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者および家族の身体状況、心理・精神的状況、人間関係・社会的役割、経済的状況、住環境などと生活上の自立や健康との関連 <ul style="list-style-type: none"> ・療養環境と生活の関連 ・身体機能と生活の関連 ・家族関係とセルフケア能力 ・療養者や家族の生活史、生活信条、価値観 ・療養者と家族成員の役割とライフサイクルにおける課題 ・社会資源活用状況と生活の関連 ・療養者や家族の生活上の課題(問題) 2) 訪問看護計画の立案
	2. 在宅療養者とその家族のQOLを高めるための看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者及び家族の価値観や意思を尊重した援助のあり方 2) 療養者及び家族のセルフケアのための支援 3) 生活条件に適した援助 4) 訪問看護の目的と、援助の実際
	3. 在宅療養者とその家族を支えるための社会資源の活用・調整	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会資源を活用している人のニーズ 2) フォーマルとインフォーマルな資源 3) 在宅療養を支える職種と協働の実際 4) 地域住民の介護予防・セルフケア活動における看護師の役割
	4. 在宅看護の特徴と役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅看護に求められるもの 3) ケースレポートの作成
外来で通院治療中の地域で暮らす患者の看護	1) 外来患者の生活状況と治療継続に影響する要因	<ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の通院治療・自己管理についてのアセスメント(受診動機、受診目的・現在に至るまでの経過・必要な治療や看護・健康問題への対処方法・家庭での生活状況・職場、学校環境・担当患者及び家族が現在気になること・担当患者及び家族が医療に期待していること) 2) 在宅療養にむけて入院時に調整されたサポートと療養者の抱える課題
	2) セルフケアを支援する外来看護師の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外来における看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・診察の補助 ・患者、家族への治療・検査の説明 ・患者、家族への生活指導 ・病棟や他職種との連絡調整 2) 専門外来における看護師の役割 3) 就労者の治療継続に向けての支援
	3) 地域連携における看護師の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連携における外来看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・初診(地域からの紹介)患者に対する治療やケアの継続のための関わり ・生活をサポートするための地域のサービス提供者(ケアマネ) 2) 地域連携、退院調整に関わる看護師の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師間の連携 ・多職種との連携 3) 継続看護のための連携 <ul style="list-style-type: none"> ・外来看護師、退院調整看護師、病棟看護師間における連携
<p>評価：出席および実習課題を指示された通りに提出されたことをもって評価とする。</p>		

1. オリエンテーションを受ける。
2. 事前学習をする。
3. 受け持ち患者を決定する。
4. 担当看護師と打ち合わせ、見学を進める
5. 看護師とともに行動し、必要な情報を集める。
6. 行動計画に沿って患者の援助に参加する
7. 日常生活についてアセスメントし、看護上の問題を特定する
8. 問題解決に必要な看護計画を立てる。
9. 立案した看護計画に基づいて実践、評価する。
10. 必要時プロセスレコードを作成する。
11. 実践の振り返りを行う。

授 業 科 目	担当講師(実務経験)	単 位	時 間
総合実習	専任教員(臨床実務経験有) 実習指導者(臨床看護師)	2	90時間 (8H×9日間+4H×2日間)

実習目的：保健・医療・福祉チームの一員として、組織の目的を達成するために看護が果たす役割・機能について実践的に学ぶ。

学習 目標	1. 組織目的達成のための病院および病棟の役割と機能について理解する。 2. 看護チームの一員として複数患者を受け持ち、対象に必要な看護が実践できる。		
組織管理の実際 (組織使命と病院部門の目的達成の役割機能)	1) 組織の目的と役割 2) 地域における労災病院の役割 3) 労働者健康安全機構における労災病院の役割 4) 病院組織の構成部門とその役割 5) 組織の機能 6) リーダーシップおよびメンバーシップ <ul style="list-style-type: none"> ・病棟の目標と機能 ・病棟管理の実際と役割 ・チーム活動を円滑にするための活動の実際 ・他職種との連携と協働 		1. オリエンテーションを受ける。 2. 事前学習をする。 3. チーム運営の実際を見学する。 4. 複数受け持ちを決定し、病棟メンバーの一員として看護実践に参加する。 5. ミーティングに参加する。 6. 学習のまとめを実施する。
看護チームの一員として複数患者を受け持ち、対象に必要な看護	1) 複数患者の援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①複数患者の看護過程 ②組織理念とのつながり ③チームの一員としての看護実践と評価 2) チーム連携に必要なコミュニケーション 3) 他職種（医師・薬剤師・理学療法士・MSWなど）の役割と具体的実践		
出席と規定の課題提出をもって評価する。			